

『真州長蘆了禪師劫外録抄』の研究(上)

禅籍抄物研究会

代表 石川力山

はじめに

中世以来の相伝の伝統と、膨大な分量の伝本資料が現存しているながら、宗派内の宗旨参究の祖録としての扱いは別として、国語学関係の資料発掘や文献整理における研究のめざましい進展をよそに、仏教史研究・禅宗史研究のための史(資)料としてはほとんど顧みられることのなかった資料群として「禅籍抄物」がある。筆者がこの「禅籍抄物」の検討を日本禅宗史研究の一つの課題とし、資料調査を進めながら折々に気がついたことを発表し出してからすでに十余年になる。この間、禅籍抄物に対する関心もようやく高まり、駒沢大学図書館や松ヶ岡文庫等に所蔵される関係資料の影印出版等による資料の整備提供も進んだ。筆者の抄物研究も、「切紙」と通称される、禅宗の中では曹洞宗に特有の、禅僧達の室内に代々秘密伝授されてきた一群の相伝資料については、これまで

でにその全貌のおおよそを把握することが出来、分類作業と同時に、若干のコメントを付しながら、資料紹介の稿もほぼ終えることが出来た。⁽¹⁾

曹洞宗関係の禅籍抄物資料は、大別すれば、祖師の祖録や語録の講義録である「語録抄」と、公案・看話の禅の参禅記録としての代語や下語・著語等を集めた「門参資料(臨済宗では密参録・密参覚帳等という)」に分けられ、「切紙」資料も広義の門参資料の一部ということになる。しかし、切紙を別個の一群の資料と見なし扱ったのは、これが曹洞宗特有の相伝資料であり、また中には厳密には門参とは言いがたい、禅宗儀礼・儀軌の指南書そのものという性格を有する部分もあったことによる。加えて、文書の形態上から見ても、神道や修験道・真言宗、さらには歌道などにも同様の形態の文書の授受があり、文化史的な比較資料という点からも、個別の資料群として扱った。ここで残された課題は、「門参資料」の本

質的な部分と「語録抄」ということになる。

この中で、語録抄関係の資料についても、これまでにいくつか検討を加えたものがあるが、数年前から、駒沢大学禅研究所主宰の研究会という位置付けをもって、毎週一回、語録抄の輪読会を続けてきた。そして、「峨山誦抄」という伝承を有する、中国曹洞宗宏智派の自得慧暉の語録の抄の幾巻かを読むことができたが、本年四月より、中世末の曹洞禅僧貫之梵鶴(一五〇五〜九〇)が、『真歇和尚劫外録』に注した『劫外録抄』をテキストに輪読を開始した。本稿はこの輪読会の中間報告で、解題とともに『劫外録抄』のほぼ三分の一を翻刻して今後の抄物研究に供し、同時に語録の本文を、寛永七年(一六三〇)刊本(寛本)・明和四年(一七六七)面山校訂本(面本)、および万安英種(一五九一〜一六五四)の抄と伝えられる明暦三年(一六五七)刊本(万本)等の、江戸期の諸版本をもって異本校合を行い、また若干の出典も明記して『劫外録』そのものの原本研究にも供しようとするものである。また、従来その書名と抄の一部が知られるに過ぎなかった、『劫外録大乘開山徹通和尚之註』という大乘寺開山徹通義介(一二一九〜一三〇九)の『劫外録』に対する注も今回発見されたので、併せて掲げる。

なお、本研究会の参加者は、曹洞宗宗学研究所所員熊本英人・同尾崎正善・同中野優子・大学院博士課程飯塚大展・同

千葉正・同橋本英樹・同修士課程水野覚禅・飯島恵道・道津綾乃の諸氏であり、今回の翻刻部分の原稿作成は、飯塚・熊本・尾崎の三氏の手になるものである。

初期曹洞宗教団の依用語録

中世社会における禅宗の本格的受容は、叡山に伝承される禅籍によって無師独悟し、唐代禅を範とした独自の見性禅を挙揚した大日房能忍(一一九四頃)の、憧れに似た中国禅への傾倒にはじまり、栄西(一二四一〜九五)・道元(一二〇〇〜五三)・円爾(一二〇二〜八〇)などの入宋求法の諸師や、陸續として渡来する蘭溪道隆(一二二三〜七八)・無学祖元(一二二六〜八六)をはじめとする宋・元の僧達の、彼此の人的交流によって促進された。また、栄西や円爾のころは、天台や密教をも併せ修する兼修禅が主流を占めていたが、日本禅宗界も次第に中国の五家七宗の禅の伝統を受けて、臨済宗や曹洞宗、あるいは臨済宗の中の黄龍派や楊岐派といった宗派分派の意識も次第に顕著になった。依用の祖録・語録類についても、臨済・曹洞の間では、互いに共通して用いる例も多く見出されるが、特に道元下の曹洞宗では、明らかに自派の祖師の系譜に連なる諸師の語録・祖録という意識が顕著で、自ずと特色を帯びるようになった。

まず、洞済共通の禅籍としては、『雪竇頌古』をもとに楊

岐派の圓悟克勤（一〇六三～一一三五）によって著わされた百則からなる公案集『碧巖録』がある。この書は、宋代禅界で全盛を誇った看話・公案の禅のテキストとして絶大な信頼が寄せられ、この風潮は日本禅界にも波及し「宗門（禅宗）第一の書」として洞済を問わず用いられ、また同様に上梓出版も行われている。曹洞宗の法を継承した道元は、中国禅宗の宗風の上から言えば、看話に対する「黙照」の禅の伝統に連なるが、伝承によれば、入宋留学中に『碧巖録』を書写したとされ、今日、道元親筆として「一夜本」と通称される、金沢大乘寺所蔵の『碧巖破関撃節録』が該書とされ、テキスト的にも貴重な異本とされている。⁽²⁾ 他にも、公案・看話参究のテキストとして、話頭四十八則を体系的に編集した『無門関』や『禅林類聚』、燈史の基本となる『景德伝燈録』・『五燈会元』なども洞済に等しく依用された。

これらに対し、中世においては曹洞宗でも行われた公案・看話の禅において、最も大量に引用され依拠されたのが、曹洞宗宏智派の祖宏智正覚（一〇九一～一一五七）の語録『宏智録』である。宏智の語の引用は、道元の『眼蔵』や、特に『永平広録』において著しく、宏智の禅とは微妙にその思想の差異を意識しながらも道元は、⁽³⁾ 宏智の「坐禅箴」を称賛し（『眼蔵』「坐禅箴」）、「王索仙陀婆」の挙揚を『宏智録』から引用して「宏智のあぐるところ、真箇の立志あり」と讃え、

如浄の例にならって「古仏」と呼ぶ（『眼蔵』「王索仙陀婆」）。こうした『宏智録』重視の傾向は、道元から三代目の義雲（一二五三～一三三三）にも見られ、⁽⁴⁾ また同時期の大智（一二九〇～一三六六）の手になったとされる、禅門の機関を集めた『古今集』や『無尽集』にも、やはり宏智の語の引用が多く、⁽⁵⁾ 『宏智録』の小参（宋版六卷本では卷四所収）に注釈を加えた『天童小参抄』もやはり大智のものと伝えられ、室町期の写本も現に存する。⁽⁶⁾

曹洞宗宏智派の系統は、東明慧日（一二七二～一三四〇）や東陵永興（一三六五）等によって日本に伝えられ、この派は一時は五山寺院に進出したが、曹洞宗という意識は根強く保持しており、⁽⁷⁾ 道元下との交流も若干存した。⁽⁸⁾ こうした事情もあってか、道元下の曹洞宗ではその後も宏智の語録は重要視されるとともに、宏智派の禅者の語録も依用されようで、たとえば如浄が禅に転じ雪竇山で最初に参学したとされる、⁽⁹⁾ 宏智の弟子自得慧暉の語録も日本に伝えられ、曹洞宗の禅者によって抄（注釈書）が作られ、広く伝えられた形跡がある。⁽¹⁰⁾

以上はいづれも、曹洞宗宏智派の語録の依用を示すものであるが、これ以外の道元に連なる中国曹洞宗の禅者の語録としては、師如浄の語録が道元によって大量に引用されることは論を俟たないが、⁽¹¹⁾ 道元三世の孫義雲などにもこの立場は継承される。⁽¹²⁾ また、中世を通じて曹洞禅の特色とされた「五位

説」などの機関の説の根拠として、洞山良介(八〇七〜八六九)や曹山本寂(八四〇〜九〇一)の語、あるいは大陽警玄(九四二〜一〇二七)のものと伝えられる『明安大師十八般妙語』、さらには曹洞宗の機関なども多く含まれる晦巖智紹の『人天眼目』などが用いられた。一方、中世において抄が残された祖録としては、『人天眼目』のほかに、投子義青(一〇三二〜八三)の語録や真歇清了(一一〇八〜一一五二)の『拈古』・『劫外録』などが挙げられよう。⁽¹³⁾特に真歇のものは、早い時期から相伝書としての性格も有していたようで、すでに述べたように『劫外録』については著語・下語のような形式で大乗寺義介の註とされるものも伝えられていた。『拈古』については、伝本を確認できないが、面山の『大智禪師偈頌聞解』の跋文には、大智の抄があったことを伝えており、後述する面山校訂、明和四年刊行の『劫外録』には、大智の『拈古鈔』からの引用として、真歇の「自讃」偈一首を付録として追加されている。

『劫外録』の依用について

丹霞子淳(一一〇六〜一一二七)の法嗣の中で、大洪山明悟慶預(一一〇二頃〜一一八〇頃)・天童山宏智正覚(一一〇九〜一一五七)とともに「芙蓉道楷の三賢孫」の一人とされた真歇清了(一一〇八〜一一五二)の、中国禅宗史上における位置付

けについては、宋代禅界を代表する大慧宗杲(一一〇八〜一一六三)の禅風に対峙する明確な主張を持つていたことは確認されている。⁽¹⁴⁾その前半生の語録『劫外録』は、生前(紹興二年以前)すでに刊行され、その後の雪峰山住持時代の語録『一掌録』も、現存はしないが紹興四年(一一三三)には刊行されており、宏智が撰した真歇の「塔銘」の序や『南宋元明禅林僧宝伝』(巻二、真歇伝)は、これら二書が広く世に流布していたことを伝えている。⁽¹⁵⁾

さて、日本の曹洞宗下で、真歇の語録『劫外録』の名がはじめて見出せるのは、既述のように大乘寺開山徹通義介に注釈があったという伝承で、これについてはすでに、岸沢惟安師が『信心銘葛藤集』(一九四七年九月、要書房刊)の中で、

真歇禪師には劫外録という語録が一冊ありて、面山老人の考訂されたものもある。

この劫外録には大乘開山徹通義介禪師が太祖常済大師のために簡単な著語を下された。しかるに劫外録そのものあることすら知ってゐるものが少いことから、徹通禪師の著語あることは、あまねく宗門人にしれわたってをらぬようだ。惜しいことです。

わしは桐生の鳳仙寺開山貫之梵鶴和尚の仮名がきの抄を持っている。それには処所に大乘開山というて徹通禪師の著語が引いてある。どうか出に世したいものだ。先祖の語録であるからね。(二頁)

とのべて、『劫外録』の貫之梵鶴の抄の存在とともに紹介している。この指摘は、『梵鶴抄』に「大乘開山ハ、……ト被仰タゾ」「大乘云」等として引用されているとともに、『梵鶴抄』の末尾には、同文庫にも「大乘著語」の存在を示唆する岸沢師のものと思われるメモがあるが、その存否は確認していない。

次に『劫外録』の名が見出せるのは、明徳二年（二三九一）五月十二日の、通幻寂靈（一三三二→九一）の「喪記」の中で、了庵慧明をはじめとする上足十一名に対する遺贈物リストの中に、

五位君臣圖面付
慧明首座了庵

一法衣壹緣 面付 五位顯訣 遺付 永就都司一徑

一法衣壹緣 面付 峨山法語 遺付 善救首座普濟

一法衣壹緣 面付 請益行卷 遺付 明見藏主不見

『真州長蘆了禪師劫外錄抄』の研究（上）（石川）

一法衣壹緣
面付 嗣書卷
遺付 自性都寺天真

一法衣壹緣
面付
轉法輪
遺付
正杲監寺了峰

一法衣壹緣	面付	雪子吟	遺付	曇貞書記天得
一法衣壹緣	面付	新豊吟	遺付	聖壽書記量外

一法衣壹緣 面付 重離六爻 遺付 聖嚴維那芳庵

右続記把帳
維那
靈珍
押

明德二年辛未五月十二日

(中略)

定光寺前総持
良秀 押

主喪 総持寺 聞本 押

『続曹全』注解三、二九頁

とあるように、『劫外録』は『正法眼藏』とともに、後に尾張正眼寺・雲興寺等を開く天鷹祖祐（一三三六—一四一三）に遺贈物として伝授されたことを伝えている。一緒に伝えられた『正法眼藏』が誰の著述かについては明記されていないが、本寺永沢寺には別に黒漆箱入りの『正法眼藏』が、衣鉢をはじめ『如浄録』『宏智録』『伝燈録』等と一緒に寄進されており（同喪記）、これは道元の『眼藏』と思われるので、天鷹に伝えられたのは大慧の『正法眼藏』と推定される。ともかくも『劫外録』は、初期の教団展開の時期からすでに、宗旨の参究書として曹洞宗内で用いられていたことが知られる。

岸澤文庫所蔵『劫外録』『貫之梵鶴抄』について

洞門関係の語録抄の特色は、純粹な提唱の聞書きとは若干趣を異にする、中世の公案・看話の禪における著語・代語に類する、達意的・象徴的な語句の援用による場合が多い。川僧慧濟(一四七五)の『人天眼目抄』は、聞書き的性格の濃厚な抄物の代表的遺存例であるが、それでも随所に著語・代語を挿入して、一種の機関の記録的体裁をなしている。⁽¹⁶⁾

さて、『劫外録』に貫之梵鶴の抄があることについてはすでに知られており、天真派の抄としても注目すべきものという指摘もある。⁽¹⁷⁾貫之は、

道元—懷奘—義介—瑩山紹瑾—峨山韶碩—通幻寂靈—

—天真自性—希明清良—大見禪龍—桃庵禪洞—

—無底靈徹—在室長端—天隱玄鎖—大年宗彭—

—然之等忻—瑞翁見祥—大溪龍察—貫之梵鶴—

という法系を嗣ぐ、峨山下通幻派の中の、関東一帯に展開した天真派に属する中世末期の学僧である。同派の在室長端開山の、龍ヶ崎市金竜寺七世となり、天文十二年(一五四三)には太田市瑞岩寺の開山となり、同二十二年(一五五三)師の金竜寺大溪の代行として、天真派の本山である越前宅良の慈眼

寺に輪住し、天正二年(一五七四)には、桐生市鳳仙寺開山に勧請されている。この間、永禄十二年(一五六九)には金竜寺住持として本山慈眼寺輪住を再び請されているので(この時は病気で、法嗣の大拙齋芸が代勤している)、金竜寺と瑞岩寺住持を兼ねる形で両所で接化を行っていたものと見られる。貫之の自筆本とされる瑞岩寺所蔵の『貫之和尚代語抄』は、永禄末から天正初年にかけて成立したものであるとされ、やはり瑞岩寺所蔵の自筆の『碧巖録抄』によれば、その奥書により、天正五年(一五七七)から翌六年五月にかけて瑞岩寺で撰述されたものと見られている。⁽¹⁸⁾

本稿で扱う『劫外録』の貫之の抄は、岸澤文庫所蔵本で、その書冊形式を列挙すれば、次の通りである。

一、冊数 一冊

一、大きさ タテ二九・〇センチ ヨコ二〇・二センチ

〔匡郭内、タテ二五・六センチ ヨコ一七・六センチ〕

一、装丁 袋綴じ

一、標題 「真州長蘆了禪師劫外録抄」(後筆)

一、枚数 表紙・裏表紙共四十五枚、本文四十三丁

一、行字数 毎半葉十行、原文二十〇二十二字、抄三十〇三十四字

一、尾題 「長蘆寂庵真歇了和尚劫外之録終」

一、奥書等 長蘆二十二世之末葉、瑞巖老比丘貫之鶴謹抄

施了

于時元龜貳天辛未（一五七二）初秋下澣 道号
名印

一、筆者 悦翁下之僧玄龍、寛永十九（一六四二）極月、

小高常光院冬之江湖衆寮ニテ書写之畢

他に、匡郭欄外の上部に、別筆による抄の要点の抜き書きが存するが、これが誰のものかは不明である。また、裏表紙の裏には、昭和十一年（二五九六、一九三六）十一月二十一日付の、所蔵者岸沢師の筆跡と思われる、峨山以来、貫之梵鶴・淵室玄龍に至る法系譜、金龍寺・常光院の住所、常光院開山の系譜、鳳仙寺・瑞巖寺の住所、寛永・元龜の皇紀による年号換算、大乘開山の註等に関するメモが付されている。

本書は、元龜二年七月成立の、著者梵鶴自身の筆になる原本から、寛永十九年十二月に梵鶴の法孫で金龍寺十五世の淵室玄龍により、冬安居江湖会中の茨城県小高村（現、麻生町）常光院で書写された再写本ということになる。書写を行った淵室の法系は、

貫之梵鶴—大拙齋芸—秀山梵芝—愚岫梵殊—

伝室宗的—龍湿法橋—楊山龍播—悦翁長怡—

淵室玄龍

『真州長蘆了禅師劫外録抄』の研究（上）（石川）

と連なる、金龍寺伽藍法の継承者である。⁽¹⁹⁾

また本抄は、カナ書きの語録抄とは言っても、いわゆるの聞書きではなく、聞書きの体裁をとって自らの手でまとめたもので、この点からは同師の『碧巖録抄』とも同種の抄物であり、文章語脈で綴られた文中に、洞門抄物に共通する言語上の特色があることは、すでに金田氏によって指摘されている。

ところで、こうした抄物が作られる際には、先行する抄の伝承の上に成立するのが通例で、門参的性格を有する抄物ほど自派の独自の解釈が意識されるので、後代になるほど他派の抄などが引用されることが多くなる。しかし、貫之がこの抄を作成する際に前提にしたと見られる抄は、徹通義介の註ぐらゐのよう⁽²⁰⁾で、他の抄を参考にした形跡は殆どない。

西明寺所蔵『劫外録大乘開山徹通和尚之註』について

義介の『劫外録大乘開山徹通和尚之註』については、岸沢師が『梵鶴抄』にその引用があることもあってその存在を指摘されていたものであるが、今回発見された豊川市西明寺所蔵本は、今のところ天下の孤本ということになる。この大乘註の特色については、かつて簡単な紹介をおこなったことがあるが、⁽²¹⁾改めてその書冊形式を紹介しておきたい。

一、冊数 一冊

一、大きさ タテ二五・二センチ ヨコ一五七・五センチ

〔匡郭内、タテ一八・八センチ ヨコ一六〇

・〇センチ〕

一、装丁 袋綴じ

一、標題 〔表紙欠〕首題「劫外録大乘開山徹通和尚之註」

一、枚数 裏表紙共九枚、本文八丁

一、行字数 每半葉十二行、原文十八〜二十字、抄三十字

一、尾題 「寂庵和尚語録大乘開山註終」

一、奥書等 尾題末「時文正二年七月日、於如意院書之是法丁」

一、筆者 首題下「瑾首座書之」とあり

首題の下の「瑾首座書之」という記載をそのまま肯い、徹通義介の弟子瑩山紹瑾の筆録になるものとするには、今のところ他に伝本や伝承もなく、これを徴する根拠はない。しかし、註の部分については、貫之の抄がこれを忠実に踏まえ引用しており、確実に義介註の伝承があったことが知られ、今後の伝本の発見が待たれる。

また、書写を示す「文正二年（一四六五）」の記載についても、本書がこの時に書写された原本そのものであるかどうかについては、紙質や筆跡等の関係から、若干疑問も残る。こ

れを書写した「如意院」については、能登（石川県門前町）総持寺の塔頭五院の一で、実峰良秀開創の「如意庵」であろうと思われる。²²

本書の註の仕方は、語録の呉敏の序、および上堂語の主要な語句を掲げ、これに対して簡潔な解釈・見解を付したもので、純粹に語句に対する注釈的なものもあるが、その他のほとんどは著語・下語と言ってよいものである。註の文体は、活用語尾などにカナ書きの部分もあるが、基本的には漢文体の抄ということになる。『秘密正法眼蔵』『山雲海月』『永平頂王三昧記』など、曹洞宗関係の初期の抄物は、漢文体のものが多く、その意味では古伝を伝えている可能性もある。

なお、語録の引用は必要個所のみに終わっているので、本文研究に資するには不足の観はまぬが、異本校訂では一応取り上げた。

『劫外録』の版本について

ここで、『劫外録』本文の異本校訂に用いた、三種類の江戸期の版本について、その概要や特色を略記しておく。

（一）寛永刊本『真歇和尚劫外録』（寛本）と略称 駒沢大学図書館所蔵

一卷。内容は、北宋の宰相呉敏（一二三三）の序・上堂・法要・機縁・偈頌・頌古・「宣和癸卯（五年、一二二三）宴坐

自讃」の偈からなり、最後に「塔銘曰」として、宏智正覚の撰した真歇の塔銘を載せる。現存する刊本の『劫外録』としては最も古いもので、刊記には、

寛永七年（一六三〇）庚午小春吉旦

四条中野市右衛門梓行

とある。寛永本は、構成上からも、また本文についても『梵鶴抄』の本文にもっとも近いテキストである。ただし、宏智の塔銘は、真歇没後の紹興二十六年（一一五六）に撰せられており、『劫外録』の宋版刊行は、すでに紹介したように紹興二年以前とされているので、宋版刊行時のままの形態を伝えているかどうかは不明である。

（二）面山校訂本『真歇和尚劫外録』（「面本」と略称）駒沢

大学図書館所蔵

一卷。江戸期の碩学面山瑞方が、寛永七年刊行の『劫外録』に満足できず、自ら校訂し出版したもので、巻頭の重刻の序文には、

校正重刻劫外録引

伏惟、真歇祖之劫外録、曾播支那也。當時有通玄淨禪師者、造此録判弁、事載空谷集。又采熱鉄丸語載仏法大明録、及俗書韻瑞等。以称了和尚劫外録則可謂熾也。日本寛永中所刊之本文字写誤、非但数十、末載塔銘、亦脱其序。余悶之尚矣。今秋有縁寓恵日山之良岳院、偶得古写本於蠹冊堆、讀之巨備焉。是故重刊流布。

『真州長蘆了禪師劫外録抄』の研究（上）（石川）

謹考塔銘之序、則謂、語録兩集行於世也。必定有広録在。若有之則可与宏智広録分鑣並馳。鳥呼、不伝于日本也、遠孫之遺憾也。今采輯散逸以附者、崑山之片玉而不忍棄也。且如昔編此劫外録、亦略上之略而所謂千百之十一乎。然而此之他之百帙千套、則不異孤月之在乎衆星、光明徧照有何辺際。伏冀、遠裔之麟角、鳳毛、称提之、以扇揚祖風、則不負祖恩之須弥山高兮大兮。遺蔭之娑竭、海深兮広兮、云爾。

明和丁亥（四年、一七六七）孟春初五、第三十三世遠孫、八十翁方面山、盥薫拝題於洛東瑞竜山之金竜軒、

（印）（印）

とある。面山の回顧によれば、寛永刊本には数十の文字の写誤があり、また末尾の宏智正覚撰述の「塔銘」も、「序」すなわち真歇の詳伝に当たる部分が欠落したものであった。たまたま恵日山（東福寺）塔頭良岳院（軒）でそれらが備わった古写の善本を見ることができたので、これを刊行流布せしめるのであるという。また、塔銘序にある「語録兩集行於世也」という記載から、『宏智録』にも比肩できる広録の存在を確信しているが、この「兩集」が『劫外録』と『一掌録』に当るとされることはすでに述べた。

面山が披見したという、東福寺良岳院所蔵の古写本がいかなるものであったかは不明であるが、確かに寛永本と面山本では、本文中に多くの異同を見出すことができる。また、「塔銘」に「序」を加えて「崇先真歇了禪師塔銘」という正

式名称を用い、末尾も、

紹興二十六年(一一五六)四月夏安居日

住明州天童山景德禪寺法弟比丘正覺撰

という撰文の記録まで載せている。

さらに「付録」として、「華藏無尽燈記(禪門諸祖師偈頌)」
「戒殺文(帰元直指集)」
「浄土宗要(蓮宗宝鑑)」
「自賛(大智拈古抄)」
「真歇了禪師(五家正宗贊)」
「船子夾山話(禪宗頌古聯珠通集)」
「恵超問仏(禪宗頌古聯珠通集)」等の記・文・偈・伝を諸種の文献から収集して追加している。

面山の本文校訂が確実なテキストに基づくものか否かは確かめようがないが、諸種の追録や、特に巻頭の呉敏の序に、他のいかなる史料にも見出せない「紹興二十八年(一一五八)正月旦」という年記を加えるのは、面山独自の判断に基づく付加と考えられ、結果的に『劫外録』の原初形態を損なうことになったのではないかと危惧するが、ここでは問題の指摘に止めておく。

(三) 伝万安抄『真州長蘆了和尚劫外録抄』(「万本」と略称) 岸沢文庫所蔵

三卷。近世初頭に刊行された、多くの洞門抄物の中の一
本。江戸初期の学僧で、宇治に興聖寺を再興した万安英種
(一五九一〜一六五四)の抄と伝えられるが、確証はない。刊
記には、

明暦丁酉(三年、一六五七)仲冬吉旦

寺町通誓願寺前

西村又左衛門新刊

とあるのみで、刊行の経緯等については一切不明である。上
巻には上堂の三十段までを、中巻には、上堂の残り二十七段
と、法要(十一段)、下巻には機縁(二十段)・偈頌(十首)・頌
古(四則)、および宣和五年の「自賛」「塔銘」が収録されて
おり、全体の構成は、寛永本・梵鶴抄本に等しい。各段落ご
とに簡潔な宗旨としての捉え方を示し、反切による発音の指
示、述語の用例・出典なども提示されていて、『劫外録』の
本文理解にはよき指針になるが、解釈は形式化して平板な結
論に至ることが多く、中世の門参的性格を有する洞門抄物
の、躍動するような注釈の姿勢は影をひそめる。

しかし、テキスト本文などについては、江戸期の版本に見
られる恣意的な改変の手が加わる以前の、中世以来の古形を
つたえている例が多く、本文研究には有益である。『劫外
録』の原本については、宋版はもとより、中世の伝本も見出
せない現在、伝万安本は異本の校訂には欠くことのできない
テキストの一本であることは間違いない。

以上が、『劫外録』本文の異本校訂に用いた江戸期の版本
の概要である。

ところで、現在、『劫外録』には中世の伝本は全く存在し

ないかのごとき印象を与えたが、かつて故石井光雄氏所蔵の「石井積翠軒文庫」中には、室町末期の写本として『真州長蘆了和尚劫外録』一冊が存したことが知られる。⁽²⁴⁾ 川瀬一馬氏の解題によれば、本文十六葉、タテ六寸五分(二九・七センチ)×ヨコ四寸三分五厘(一三・二センチ)という比較的小型の写本であったようであるが、毎半葉が十二行と行数も比較的多く、十分『劫外録』全体を書写し得ていたであろうと推測される。

また、この故石井氏旧蔵本『劫外録』には、本文と同筆で全体六葉からなる、「寂庵和尚云語録註」が付加されていたようであるが、これは西明寺所蔵の『劫外録大乘開山徹通和尚之注』の尾題「寂庵和尚語録大乘開山註終」にも近似しており、枚数の上から見ても、おそらく同一の註であったと見られる。しかし、この故石井氏旧蔵本はその後、多くの稀覯本とともに散逸して、現在その所在は不明である。何処かの櫃底に眠っているはずの室町期写本、あるいはより古い版本が、本翻刻が終了するまでの間に出現する奇跡を俟つのみである。

注

- (1) 「曹洞宗切紙の分類試論(一)」「(二十三)」(『駒沢大学仏教学部研究紀要』四十一～五十二号、『駒沢大学仏教学部論集』十四～二十四号、一九八三年三月～一九九四年三月) 参

『真州長蘆了禪師劫外録抄』の研究(上)(石川)

照。

- (2) 竹内道雄「永平道元と碧巖録―道元の一夜碧巖将来説について―」(『宗学研究』一卷一号、一九五六年三月)、鏡島元隆『道元禪師と引用經典・語録の研究』第四章「第四節道元禪師と碧巖集」(一九六五年十月、木耳社刊)等参照。

- (3) 前掲鏡島元隆『道元禪師と引用經典・語録の研究』二六〇頁、石井修道『道元禪の成立史的研究』第四章「第六節『宏智録』の歴史的性格」(一九九一年八月、大東出版社刊)等参照。

- (4) (12) 拙稿「義雲録」における『宏智録』引用の意義」(『駒沢大学仏教学部研究紀要』三五号、一九七七年三月) 参照。

- (5) 拙稿「古今全抄」について」(『印度学仏教学研究』二七卷二号、一九七九年三月) 参照。

- (6) 安藤嘉則「天童小参抄」について」(『宗学研究』三十三号、一九九一年三月)、納富常天『横浜市指定文化財 天童小参抄(下巻)』翻刻並びに「改題」(一九九三年三月、横浜市教育委員会)等参照。

- (7) 拙稿「鎌倉における曹洞宗宏智派の消長」(『印度学仏教学研究』二十二卷二号、一九七四年三月) 参照。

- (8) 東明慧日の参じた中岩円月(一三〇〇～七五)は、「自曆譜」によれば文保二年(一三一八)、永平寺の義雲に参じて「洞宗の語言に通」じた言っており、これはおそらく東明の指示によったものと思われる。

- (9) 石井修道前掲書、四九七頁。

- (10) 拙稿「峨山和尚誦抄『自得暉録』について」(『宗教学論集』第九輯、一九七九年十二月)は佐賀県武雄市円応寺所蔵の該書を紹介したもので、峨山韶碩の抄であることを記す唯一のテキストであるが、同系統の抄として、豊川市西明寺・愛知県一宮町松源院・上田市大輪寺等にそれぞれ、完本ではないが伝本が現存する。また館林市小池篤氏所蔵の、室町期の語録写本『靈竺浄慈自得禪師録』の欄外や行間には、克明に抄が書写されており、抄の完本としては唯一のものである。他に、豊川市西明寺には、これらとは異なる抄の端本(一冊本、巻一・巻二部分)が伝えられている。自得の語の依用は他に、大智のものとされる『無尽集』にも引用される。
- (11) 鏡島元隆前掲書二四七頁、および拙稿「祖山本『如浄録』について」(『傘松』四〇六号、一九七七年七月)参照。
- (12) 金田弘『洞門抄物と国語研究』(一九七六年十一月、桜楓社刊)付表「曹洞宗関係カナ抄物一覧表」参照。
- (13) 石井修道『宋代禅宗史の研究』(一九八七年十月、大東出版社刊)第三章「第三節 芙蓉道楷の三賢孫」参照。
- (14) 椎名宏雄『宋元版禅籍の研究』(一九九三年八月、大東出版社刊)は、「語録両集行於世」(塔銘)「所編語録二集若干卷行世」(僧宝伝)等の記載によって『真歇清了禪師語録』二卷を(宋金元版禅籍逸書目録)に挙げるが(六一五頁)、石井前掲『宋代禅宗史の研究』は、宏智の「塔銘」にいう両集とは『劫外録』と『一掌録』とする(二七一頁)。
- (15) 『抄物大系』人天眼目抄』(一九七五年六月、桜楓社刊)
- (16) 中田祝夫・外山映次解説。拙稿「『人天眼目抄』について」(『印度学仏教学研究』二六卷四号、一九八〇年三月)参照。
- (17) 駒沢大学図書館編『新纂禅籍目録』(一九六二年六月、日本仏書刊行会刊)二二二頁、及び金田弘「天真派貫之梵鶴の抄」(『浅野信博士古稀記念、国語学論集』所収、一九七七年十月、桜楓社刊)参照。
- (18) 前掲金田論文。
- (19) 貫之梵鶴の法系については、曹洞宗全書刊行会編『曹洞宗大系譜一』(一九七六年十二月、同刊行会刊)八九五〜九八頁参照。
- (20) 岡田宜法『日本禅籍史論』(一九四三年、井田書店刊)、およびこれを承けた『新纂禅籍目録』(二二二頁)は、焼津林叟院六世哉翁宗咄が享禄五年(一五三二)に撰した『劫外録抄』があったとするが、事実とすれば貫之抄にやや先行する時代の抄ということになる。
- (21) 拙稿『洞門抄物の発生とその性格』(『財団法人松ヶ岡文庫研究年報』二号、一九八八年二月)参照。
- (22) 岩見国竜雲寺(無端派、三隅町)の末寺として、同国同町に如意院があるが、本註との関係は不明。
- (23) 前掲石井修道『宋代禅宗史の研究』はこの年号を、真歇の寂年より憶測した面山の付加とする(二七八頁)。
- (24) 川瀬一馬編『石井積翠軒文庫善本書目(本文篇)』(一九四二年十月、石井光雄発行)四三頁。

(以上、執筆責任 石川力山)

〔翻刻凡例〕

一、本資料は、岸沢文庫に所蔵される『真州長蘆了禅師劫外録抄』（貫之梵鶴抄）を忠実に翻刻しようとするものであり、『劫外録』の本文については、今日知られる範囲で異本校訂の結果を注記した。ただし、改訂については（ ）内に丁数・表裏（オ・ウ）を付記したが、改行は指示しなかった。

一、翻刻に当たっては、異体字・略体字・別体字・俗字等も忠実に再現することにとめたが、省文等、活字用正字に改めたものもある。また、省略された慣用禅語等については、必要に応じて「」内に補った。

一、『劫外録』の異本校訂に用いたテキストは、基本的には「寛永本」「面山本」「万安抄本」の三本で、それぞれ「寛本」「面本」「万本」の略称を用いた。

一、『大乘開山注』に引用された本文についても、該当する個所があれば「大本」と略称して校訂に用いた。

一、『梵鶴抄』の匡郭外にある抄の摘要については、後人の筆跡で、抄の内容を出るものでもなかったので、今回はこれを省略した。

一、上堂以下の部分については、整理のために各段落にしたがって通し番号をつけた。

一、『大乘開山注』の存する部分については、各段落毎に、

『真州長蘆了禅師劫外録抄』の研究（上）（石川）

二字下げ、活字のポイントを落とし、一括して掲げておいた。

一、今回の翻刻は、全体のほぼ三分の一の分量に当たる。今後さらに翻刻・本文校訂・出典注記等の作業を継続していく予定であるが、新出資料が出現したなら、その都度異本校訂作業等に反映させていきたいとおもっている。

本文

校定

真脇長蘆了禪師劫外錄序

長芦了禪師、芙蓉之孫、丹霞之子⁽¹⁾。得^ル法於鉢孟峰上^ニ、
長芦ハ、処名也。芙蓉ハ、山ノ名也。鉢孟峰ハ、長芦

ノ十境ノ一境ナリ。真歇清了ハ、丹霞淳ニ、空^(却已前自)己ヲ問^テ答^テ、投^テ以^ニ無所^一得^モ而得^リ。
機有テヨリ以來、一生涯、此得処ヲ以テ、拳ニ揚宗旨ハ、故是ヲ却外録ト号也。

トハ、金剛經云、如來在^ニ燃灯仏所、於^レ法実無所^一得云々。如^レ法於^一葦江邊^ニ、以^テ無所^一
其、師亦於丹霞処ニ所得ハ無ゾ。爰ガ、祖師玄妙不可得タゾ。説ニ法於一葦江邊、以ニ無所一

説^ニ而^モ説^ル。一葦江邊トハ、長芦ノ傍也。説法ノ場ヲ云也。燃灯仏モ、
爲^ニ世尊終一法ヲモ説ヌゾ。如^レ其、無所説ガ、師説法也。雲行、水止、從而問^レ

法者、常千七百⁽²⁾人、
雲行水止トハ、江湖雲水客ノ往來以^ニ無所聞^ニ而^モ聞^ク。世尊モ於^ニ燃灯仏送迎ヲ云也。問法ハ、參学也。

説法声云々。如^レ其也。予嘗造^テ其室^ニ、
予トハ、此序ヲ居タヨウ。宵^ニ然^{タリ}空^ニ然^{タリ}。廣大ニシテ、師ノ道、爰ガ、真聞タゾ。

予莫^ク能^ル知^ル也。
トハ、更ニ凡慮^ル。觀^テ其^ニ抱^キ於^ニ美玉於空山^ニ、^(混)銀^一河之秋^ニ月^上。トハ、師ノ吐出ス程ノ言句、十二時行迹、誠言^一行相應、明白^ニ視^ル之^ハ不^レ見^ヘ、言^ニ之^ハ莫^ク及^ビ。トハ、垢モ無^ラ云タゾ。美玉・秋月ハ、功ノ上ニ、賓主相合也。

曹洞宗旨、家風細密ニシテ、更^ニ時々顧^ミ上堂之草^ニ深^ニ、憐^ム戶外之履^ニ滿^ニ。
堂上トハ、向^ニ難^レ窺難^レ測^ゾ、ト云義也。時々顧^ミ上堂之草^ニ深^ニ、憐^ム戶外之履^ニ滿^ニ。上トハ、山深ト

ハ、誰モ消息不^レ通一位也。師本イヲ云タゾ。戶外ト
ハ、向^ニ下也。履滿ヲ憐トハ、修行ノ客聚ヲ云タゾ。於是、万^ノ金良藥、湔^テ腸易^レ骨^ニ。
良藥

良藥

良藥

(5) 大本、「易」ヲ「換」ニ作ル

(3) 大本ニ「於」ナシ
 (4) 大本ハ「銀河混秋月」ニ作ル

(2) 大本、「千」ヲ「一千」ニ作ル

(1) 寛本・面本・万本、「子」ノ下ニ「也」アリ

トハ、此一着子ヲ以テ、應^レ病^ニ藥^ニ醫師^ノ如ク、學者ノ根器ニ随テ、凡夫ノ腸ヲ洗イ、仏祖ノ骨ヲモ易ヘサセテ、空「却已前自」己ニ成ゾ。去社、

走、人々輕^ニ安^ニ、得^レ未^レ嘗^レ病^ニ。法^ニモ、祖^ノ帀^ノ玄妙^ノ訣^ヲ。又如^シ雷^ノ雨^ノ既^ニ作^ニ草木^ノ萌^ニ動^カ上^ニ。

頃^ニ刻^ニ霄^ニ止^ニ了^ニ無^レ痕^ニ。天^ノ清^ニ物^ノ春^ニ、雨^ノ已^ニ無^レ用^ニ。トハ、師^ノ慈^ニ悲^ニヲ垂^テ、度^レ人^ノノ様^ノ子^ヲ、春雨^ノ潤^ニノ、草木^ノ生^ニ長^ニスル^ニ比^ニゾ。是ハ、

今^ノ時^ノ目^ノ前^ノノ作^ノ畧^ヲ、出^ル。雖^レ然^ニ、豈^ニ直^ニ如^ニ是^ニ而^ニ已^ニ。トハ、曇^タゾ、晴^タゾト云ハ、今^ノ時^ノ義^ニ。是^ノ世^ノ辺^ノノ様^ノ子^{ナリ}。ハ、本^ノ来^ノノ天^ヲ令^レ知^レ為^レタゾ。回^互ノ機^ヲ含^ニ義^ニ。

木^ノ鷄^ノ啼^キ霜^ニ、石^ノ虎^ノ嘯^ク雲^ニ。トハ、空^ノ却^レ已^レ前^ノノ自^己ニ契^當ノ無[□]「(1ウ)道人ノ吐^ニ出^ニ語^ハ、木^ノ鷄^ノ・石^ノ虎^ノノ声^ノ迄^ヨ。無^ニ心^ニ不^レ沈^ニ。木^ノ鷄^ハ陽^ノ、啼^ハ霜[、]陰^ヲ兼^ニ。

石^ノ虎^ハ陰^ノ、嘯^ハ雲[、]陽^ヲ兼^ニ。是^ガ洞^上ノ唱^タゾ。鳥^ノ鳴^キ山^ノ・(幽^ニ)、蟬^ノ噪^チ林^ノ寂^ニ。師^ノ說^ニ法^ハ、鳥^ノ鳴^蟬ノ噪^タ迄^ヨ。サレ^レ上^ノ句^ハ、春^ノ朝[、]下^ノ句^ハ、

秋^ノ夕^タゾ。是^モ、陰^陽片^ノ落^ヌ文^章。世^ニ有^ニ望^ニ角^ノ知^ニ牛^ノ聞^ニ嘶^ニ知^ニ馬^ノ者^一。トハ、知^解ノ宗^徒ヲ云^タゾ。世^ニトハ、

其^ノ庶^ニ幾^ニ歷^ニ其^ノ藩^乎。トハ、師^ノ法^ノ語^不尋^常、依^レ之[、]慕^ニ道^ノ風^者多^ニ。

師^ノ語^ハ、盖^シ上^ノ堂[・]法^ノ要[・]偈^ノ頌[・]機^ノ緣[、]凡^ニ若^ク干^ノ篇[※]。

中橋居士吳敏^ハ、諱^ニ。真^ノ歇^ノ序[。]

師^ノ之^ノ法^ノ嗣^ニ三^{十三}七^人。為^僧四^{十五}夏[、]出^世三^{十六}年[。]寂^菴ハ、道^ノ、清^了ハ、諱^ニ、悟[。]

空^ノ塔^ノ名[。]「(2オ)。

『劫外錄大乘開山徹通和尚之註』

『真州長蘆了禪師劫外錄抄』の研究(上)(石川)

(6) 大本ハ「得未曾有病」ニ作ル

(7) 大本、「鷄」を「雞」ニ作ル
(8) 大本、「雲」ヲ「風」ニ作ル

(9) 大本ニ「望」ナシ

(10) 大本ハ「豈歷」ニ作ル
(11) 面本ニハ「紹興二十八年正月旦」ノ年記アリ

(12) 面本ニ「師語……凡若干篇」ノ十五字ナシ。

(13) 大本ハ「三十三」ニ作ル

劫外錄大乘開山徹通和尚之註

瑾首座正書之。

長芦△処之名也▽。芙蓉△山之名也▽。丹霞△山名△▽。鉢盂峯上△十境ノ一境△。長芦境致△▽。一葦江辺△說法処△。又指長芦△▽。一千七百人△衆ノ数△▽。雲行水止△往来衲僧△▽。窅然空然△洞然明白処△▽。温伯雪子△孔子弟子△▽。浄名居士△維ノ名△▽。觀其抱美玉於空山、銀河混秋月△功之賓主相合也▽。視之不見△見聞不及△▽。言之莫及△言思不到△▽。戸外之履滿△今時作用△▽。堂上草深△両辺ノ用子△▽。万金良藥△一段ノ夏、人々具足物△▽。湔腸換骨△透頂透底▽。得未曾有病△伊本不生不滅△▽。如草木萌動△出世辺ノ夏ノ要△▽。天清物春、雨已无用△今時一色△▽。木鷄啼霜、石虎嘯風△自己一色▽。鳥鳴山幽、蟬噪林寂△那邊一色也▽。有角知牛、聞嘶知馬△拳一明三手段、亦諸方之衲僧ノ行履△▽。其庶幾豈歷其藩乎、△師ノ法語不尋常△▽。中橋居士△真歇法師△▽。吳敏△居士諱△▽。師之法嗣、三十三人也。
(箇)
為僧四十五夏、出世三十六年、△々中禪人法潤、其數無量也。師諱清了、道号寂庵、禪師号悟空、其塔頭名靜照。序之分畢。諱清了▽

真歇長蘆了和尚劫外錄

侍者 徳初 義初 編

(1) 上堂。僧問、三世諸仏、向_二火焰裡_一、轉_二大法輪_一、還_レ端的也無_○。今_レ時陽位ヲ云_ハ火焰裡トハ、

タゾ。大法輪ヲバ、何ト転ゾ。李師呵イ々大イ笑云、我レ却疑タ着ス大咲ハ、陽ノ發処、雪消氷解梨白桃杏紅コソ、如来ノ正法輪ヨ。我却疑着トハ、現成ニ不

會大難アリ。僧云、和尚、為レ什广、却疑^ス着。師云、野花香^{シテ}滿^ニ路、囿^ニ鳥不^レ知^レ春^ヲ。全

春ルナニ依テ、不知ゾ。
 師ノ疑着モ如此タゾ。
 僧礼拜。
 此僧作家ナル
 ガ故ヘニ、云、今日遭ニ人毒手_ニ。
 今日トハ、垂手ノ処_ニ。
 久遠ハ、不垂手_ニ。今

日ナレト、正法輪ヲ師乃云、柳一^イ眼争^レ芳混^ラ秀^ニ。
示セバ、毒手タゾ。大乗開山ハ、大似^ニ春有^レ景ト、ヒ仰タゾ。緑
紅ト現成ノモ、皆ナ無陰陽地ノ、無影樹頭ノ

紅ト現成ノモ、皆ナ無陰陽地ノ、無影樹頭ノ

(1) 寛本・面本・万本ハ「風煙混秀」ニ、大本ハ「風烟混秀」ニ作ル

春色（タゾ）。未露（ノ）処（ニ）密移（ミシ）春色、不（ノ）萌時（ミ）暗染（ミ）溪光。位（デ）一般、正偏一如（ミ）。寒岩（ノ）樸子歌（樸）

(2) 大本ハ「処」ヲ「時」ニ作ル

謡（シ）、野渡（ノ）渙（ノ）人鼓腹。トハ、樸子・渙人ハ、仏祖未生ノ時、空「劫已」前ノ人ヨ。爰コソ、

（3オ） 各々自位ノ正法輪ヨ。歌謡シ、鼓腹、本有ノ大平也。

所以道、正則（ル）龍啣（ミ）異宝、偏則（バ）鶴宿銀籠。竜ハ陰ノ精、潭底ニ蟠リ、深ク隠身ゾ。啣レ

（異） 異宝ハ、全ク正也。鶴ハ、千年ヲ歴テ頂丹

(3) 寛本、万本、面本、「啣」ヲ「銜」ニ作ル

也。樹頭不（レ）藏身ゾ。宿銀籠ハ、全ク偏ナリ。如此、且道、不（レ）落正偏（ミ）、作（ノ）广生相（カ）委。

良久（ノ）爰デ、兩位一致ナリ云、萬機休罷処、一曲（ノ）韵無私。万機ハ、今時、色

界也。此ヲ休スレ

〔徹通和尚之註〕

上堂。僧問、三世諸仏、向火焰裏、轉大法輪、還端的無（ノ）難向用処也。又功也。疑着（ノ）不犯道ノ句故云。梵花香滿路、幽鳥不知春（ノ）僧作家。柳眼争芳、風烟混秀（ノ）大似春意（ノ）在景也。未露（ノ）不萌処（ノ）一般、偏正一如也。万機休罷処、一曲韵無私（ノ）千聖不傳之処也。位之極リ也。万機休罷（ノ）又、絶学无為趣也。

(2) 上堂。僧問、如經（ノ）蠱毒之鄉水、也不得（レ）露他一滴、未審、此意如何。

蠱鄉毒ノ注多シ。早竟ノ用処ハ、觸他テハ、サテゾ、ト云義也、宗門デハ、自己ノ离（ノ）レハ也。火聚ノ功ヲ透テ、至位ノ様子、觸着弥天罪ト、飛（ノ）ノク処也。サテコソ、師云、及（ノ）尽（ノ）

始通身。自己ノ功ヲ尽（ノ）及スレバ、遍身ヲ离レテ、僧云、通身後如何。トハ、サテ其方（ノ）知（ノ）

(4) 寛本、万本、面本、「方」ノ上ニ、「師云」トアリ。

撲不破^{ナル}。合^レ大道、全身ナレバ^レ。打テモ、可^レ碎^ル。師乃云、不^レ假^レ舌^ヲ頭^ヲ説^ク、熾^ト焚^ト。

(5) 正本ハ「而説」ニ作ル

無^シ間^一歇。向^上ニ行履^ノ人^ハ、不^レ假^レ舌^ヲ頭^ヲトハ、^上無情説法^ト。深密々^ノ処、光^一彩頓^ニ生^シ。

明歴々^ノ時、混^一融^ニ皎^ニ潔^ニ。深密々^ノ処^ハ、那^レ辺[・]向^上。光^一彩生^シ、明歴々^ノハ、這^レ若^レ也^ノ和^レ身^ヲ放^ク。

倒^シ、随^テ流^ニ任^セ真^ニ。爰^ハ、深^キ心^ヲ得^ル。行^ニ々^ノ無^ク、住^ニ々^ノ無^ク、聞^ニ々^ノ無^キヲ云^ハ。始^一信^ニ、百^一般^一計^一較^一、不^レ成^レ運^一用^一。

ト云^フヲ始^メ信^ストハ、本^ト無^レ欠^一缺^一。トハ、日^ヲ用^ノ作^業ガ、不^レ欠^レ本^ニイ^テ也。

雖^ニ焚^レ恁^一、金屑^ニ雖^レ貴^ト落^レ眼^ニ成^レ翳^ト。トハ、如^レ此^モ、弁^明スル^ハ、當^人デハ無^ク。

(6) 大本ハ「金屑眼中翳」ニ作ル

〔徹通和尚之註〕

經盡毒之郷水^ハ透^レ大火^ヲ聚^ル。功^ヲ至^レ位^ニ時^ヲ節^ス。及^テ尽^ニ始^メ通^ス身^ハ合^レ大^ニ道^ニ處^ニ。撲^レ不^レ破^ルハ刀^ヲ斧^ヲ斫^レ不^レ開^ル。不^レ假^レ舌^ヲ頭^ヲ而^テ説^クハ无^レ情^ノ説^フ法^ト。深密々^ノ處^ハ向^上也。明歴々^ノ時^ハ色^ノ体^也。金屑^ノ眼^ニ中^ニ翳^ト。可^レ吐^レ却^ル也。

(3) 上堂。僧問、百草頭上^ニ罷^ニ却^ニ平^ニ生^ニ、^時如何^ト。百^ノ草^ノ頭^ノ上^ノトハ、万^ノ般^ノ受^ノ用^ノスル^ノ上^ニデ、此^ノ道^トニ合^フタ^リワ、何^ト問^フタ^リゾ、是^ハ、用^ノノ行^ク履^クナ^リ。師云、你^ニ無^ニ藏^レ身^ヲ處^ト。トハ、乾^ニ坤^ノ大^ニ地^ノガ、此^ノ道^ニデ挂^テタ^リハ、トコ^ニモス^キ無^クゾ。僧云、恁^一、則^一遍^ニ界^ニ露^ニ堂^ニ々^ト。トハ、サテ

(7) 面本ハ「你」ヲ「亦」ニ作ル

ハ、大^ニ道^ノ一^ニ片^ニ。師云、切^一忌^一作^レ面^ヲ目^ト。切^一忌^一トハ、如^レ此^モ、解^會セ^ルバ、有^レ相^ヲ執^テ着^テトナル^ゾ。僧云、不^レ作^レ面^ヲ目^ト、又^一作^レ目^ト。目^トニ作^ル。

(8) 大本ハ「不作面目」ヲ「切忌作面目」ニ作ル

泥牛ハ、大道ノ全体ヲ云タゾ。雲モ不_レ蔵、キラリツト
ノゾ。泥牛ハ、兩角無シ。兩角ハ、生死迷悟底ヲ离レバ、

尽天^(金)尽地ガ、伊ガ瞬⁽⁹⁾息不^レ通、如何

深密、正
位一片ニ、

正恁广、
 眨卜六、
 正有

盃餅ト云ニ、古夏アリ。此
 兩位ヲ盃餅ニメハ、サテ、

雲ハ天
ニ付キ、

水ハ地ニ付タゾ。是レハ、偏正ノ兩位也。此二共散一流れバ、兩位トモニ空ノ、サテモ無ゾ。功尽位忘処ナリ。

〔徹通和尚之註〕

百草頭上罷却平生△用之行履也▽。切忌作面目△今時尽却処々▽。泥牛觸散嶺頭雲△一句到位
 々。不住白雲劫々▽。把定乾坤眼△位深密処也▽。融通造化機△色一辺ノ夏也▽。打破罍瓶△百
 雜碎処也▽。雲散水流去、寂然天地空△向上也。色尽功志々▽。

(4) 上堂。傍參密旨、妙會玄宗。密旨、玄宗ヲ會スルガ、傍參タゾ。妙會、玄宗ニ會スト云ハ、解會スルキワニアラズ。句在ニ混沌前、

豈^レ涉^ン今^ノ之^ノ路^ニ一。
他今受^レ無^デハ。句ト云ハ^下之^ノ。 密旨・玄宗ナラバ、混
 無舌人解^レ語^ベ。
他前^ノ句^ヲ。 是コソ、混
 無情者皆^レ

聞。無舌人ノ語ヲハ、無情者共ガ、得聞ゾ。此ガ、傍参妙会タゾ。通途消耗不_ル分_ツ(タカ)時、耗トハ、勅昼_レ。通途タレ共、誰モ開テミタ者ハ無ゾ。冥_ト

『真州長蘆了禪師劫外錄抄』の研究（上）（石川）

(9) 寛本・万本・面本、〔息〕ヲ〔目〕ニ作ル

(10) 寛本、万本、面本ハ「餅」ヲ〇
ニ作り、大本ハ「瓶」ニ作ル

脉浩一流無^{ハタテ}間^マ処。

灵脉トハ、王權^ハ。浩流トハ、
誰カ王權デ無イ者ノ有ルゾ。

且道、不⁽¹¹⁾借々作^ハ广生。

トハ、尊卑別各
ノ時ハ、君ハ臣

(11) 面本、「々」ノ下ニ「底」アリ。

ノ借^ハ力、臣ハ君ノ借^ハ力ゾ。混雜^ハ、共ニ一途ナレバ、互ニ力
ヲカリモセズ、借シモセヌゾ。此時、不借々^ハ。サテコソ、良久云、
此時、尊卑和合。堆々全
体露^ル、祇^ニ广^ニ不^レ曾^ハ藏。

此結句ヲ以テ、可心得^ハ。君臣合道ト云ニモ、意兩アルゾ。臣ノ就^レ
君時キハ、位裡極則ニ難^レ窺^ゾ。君就^レ臣時キハ、露^レ藏サヌゾ。

〔徹通和尚之註〕 ナシ

(5) 上堂。僧問、不^{ルモ}落⁽¹²⁾風^ニ彩、還^テ許^ハ轉^ハ身也無。

風彩ハ、風流^ハ。功^ハ処^ハ。不^レ落^ハ処^ハヲ
轉^ハ身トハ、位ヨリ位ヲ轉^ルノ義^ハ。

師

(12) 面本ハ、「落」ヲ「露」ニ作ル

云、石⁽¹³⁾人行^ハ処^ハ不^レ同^ハ功。

石人トハ、不動ニシテ、位裡ノ主^ハ。行^ハ
処トハ、功ヲ歷^テ轉^ルトハ、不^レ同^ハ。

(13) 面本ハ、「人」ヲ「女」ニ作ル

向上トハ、功ノサタモ、
位ノサタモ、無キ処^ハ。

師云、妙在^ハ一^ハ漚^ハ前^ハ、豈^ハ容^ハニ千聖眼^ハ。

深潭波未^レ起ト、大
乗^ハ、ヒ仰^タゾ。

(被)

拜。^(禮)聞得^テ、
□^ハノゾ。師云、^(5オ)只^ハ恐^ハ不^レ恁^ハ广^ハ。

トハ、尊貴モ有テコソ、
礼ヲバ受ケベケレ。

師乃云、智不到^ハ処、

道着^{スレバ} 即頭角生。

向上ノ知不到^ハタゾ。爰ハ、何ントモ云エバ、
功位ノ兩角ガ生ル処ゾト、不犯^ハニ置^ハ。

心^ハ不^レ泯^ハ眈、認^ハ着⁽¹⁴⁾ 即影^ハ

(14) 寛本、万本、面本ハ、「着」ヲ著
ニ作ル

像現。

心トハ、有^ハ為^ハ心^ハ。不^レ泯^ハノ認^ハ着^ハスル
故ニ、空^ハ假^ハ。功位ノ影像現ルナリ。

百匝千重都擺^ハ撥^ハ、

トハ、翻譯集云、众生ノ一念、
縹^ハ萌^ハ、即百念生ス。其ノ百念

ヲ、六凡四聖ニ、百充ニ分、其^ハ数千^ハ。其^ハレヲ分^ハ三世、其^ハ数千^ハ。是ヲ云ニ一念三千^ハ。此一念
ヲ進退スルヲ、曰^ハ四聖、此一念ニ迷惑スルヲ、六凡ト云タゾ。程ニ、此百匝千重ヲ撥^ハヘバ、
騰^ハ今^ハ契^ハ古本無^ハ虧^ハ。トハ、本心明白ニ
メ、古今無^ハ阻^ハ。木^ハ鶏啼^ハ断^ハ海^ハ雲^ハ昏^(昏)、
大乘云、向去^ハ。不^レ可^ハ見^ハ
向去云々。一念ヲ撥^テ、無

心ノ作用ヲ 石虎嘯「開山」色秀。 大乘伝、却来。不_レ可_レ見却来云々。是モ、 光_一境俱亡_一 即云タゾ。 無心ノ道人ノ作用。功_ニモ位_ニモ、不_レ沈_レ。

且_一置_一、海雲山色ハ、境。木鶏石虎ナレバ、唇_トモ秀_トモ、不_一授_一手_一是_レ什_一人_一。是ハ、功_ソ、知_ヌゾ。此ガ、光境共亡_ノ処タゾ。此ヲバ、且置。是ハ、位_ソト

指スハ、不_一授_一、良久云、爰_コソ、不_一授_一ノ手 青_一松生_一古_一韵_一、白_一髮_一咲_一寒_一岩_一。青_一松ハ、正_一位_一。手デハ無_レゾ。良久云、ヨ、片落_ヌ処ナレ。生_レ古_一韵_一、功

帶ビタゾ。白_一髮_一尽_レ功_一人_一。咲_一寒_一岩_一、位_ニ就_タゾ。寒_一岩_一、正_一位_一。 (5ウ) 結句ハ、良久ノ処。委_レ可_レ着_レ眼。功_デモ、位_デモ無_レゾ。

〔徹通和尚之註〕

妙_一在_一一_レ涯_一前_一ハ深潭波未起也。木鶏啼断海雲昏_一向_一去_一、不可_レ見向_一去_一。石虎嘯開山色秀_一却_一来_一ノ不可_レ見却_一来_一也。青松生古韵_一轉_一位_一就_一功_一。白髮笑寒岩_一轉_一功_一就_一色_一。再甦_一来_一今_一時_一人_一。

(6) 上堂云、機_一輪密_一處_一、灵_一草未_一生_一。洞_上デ、密_一處_一ト云_ニハ、何_ノ沙汰モ無_イ処タゾ。ハヤ機輪

當_一正_一位_一トイ_一ヘバ、溢_一目_一不_レ登_一、揚_一眉_一自_一曉_一。上_ノ句ハ、合_一眼_一。下_ノ句ハ、卒_一度_一開_一タゾ。催_一曉_一氣_一。此_一一_一氣_一ガ、意_一共_一成_一リ、句_トモ成_一ツタゾ。有_一

眈_一意_一到_一句_一不_レ到_一、意_斗デ、句_ハ無_イゾ。意_斗ノ弁_一別_一ハ、洞_上デ一_一大_一夏_一ノ法_一令_一タゾ。認_一白_一雲_一蔵_一レ

玉_一鳳_一。大_一乘_一云_一、至_一自_一己_一。有_一眨_一句_一到_一意_一不_レ到_一、句_斗ニテ、意_ハ無_ゾ。秋_一露_一滴_一銀_一河_一。玉_一几_一ハ、本_一イ_一。

大_一乘_一云_一、了_一目_一前_一。有_一眨_一意_一句_一俱_一到_一、兩_一位_一不_レ欠_一ナリ。妙_一尽_一不_レ當_一今_一、虚_一明_一不_レ出_一戸_一。上_ノ句

下ノ句ハ、意也。大且道、意句俱不^レ到、又作广生。^{トハ、向上ノ意ト、大乗ハ、ヒ仰タゾ、}良久云、^(被)ハ、

一向ニ、意句ノ不^レ傳⁽¹⁷⁾ニ千聖、口^一、莫^シ向^レ万機求^一。^{上ノ句ハ、意ヲ不^レ帶也。下ノ句ハ、不^レ帶レサタ無キ処也。句也。身移^レ密処、意句難^レ通トハ、是也。}

委可^レ弁明^(被)ト仰ナリ。^(6オ)

〔徹通和尚之註〕

白雲藏玉几^(鳳)入至自己^一。秋露滴銀河^一了目前^一。妙尽不當今、虛明不出戸^一向^レ上^一。不傳^(口脱カ)千聖、莫向万機求^一向^一□□^一。

(7) 上堂云、暗^一裡抽^レ横^一骨^一、^{トハ、暗ヲ極レバ、明ヲ極レバ、}明^一弥天句已^一彰^一。^{トハ、不^レ犯明中}

坐^ス舌^一頭^一、^{明ヲ極、暗ヲ形也。無}匠^一地無^シ紋^一彩^一。⁽¹⁸⁾犯^一不^レ犯^一也。匠^一混^一不^レ容^一其^一迹^一、^{地ハ、弥天對也。混不^レ容其迹、}冥^一不^レ

留^一其^一痕^一。^{トハ、暗ニモ明ニモ、}金^一烏子^一夜出^一乾^一坤^一、^{シトメザルナリ。}停^一午濃^一雲生^一岳面^一。⁽¹⁹⁾トハ、子夜

バ、金烏出、停午カトスレバ、濃雲生。且道、須弥那畔、什广人擔^ス荷^一。^{須弥ハ、日月ノ廻}

不^レ拾^一、^{バ、金烏出、停午カトスレバ、濃雲生。且道、須弥那畔、什广人擔}擔^一荷^一ノ受用スル底ノ人ヲ、云^一ン良久云、^{爰ガ、兩頭ノ荷}莫^レ行^一ニ玄處路^一、功^一尽合^一

平常。^{レバ、輕モ無ゾ。平常トハ、}玄処エモ不^レ行、功処エモ出ヌゾ。玄処ハ重ク、功処ハ輕ゾ。不^レ行レバ、重クモ無ク、功尽

不犯ノ文章也。委可^レ得^レ意也。

(17) 大本ニ「口」ナス

(18) 大本ハ「文彩」ニ作ル

(19) 面本ハ「停午濃雲」ヲ「濃雲停午」ニ作ル

〔徹通和尚之註〕

弥天句已彰、不出世中出世。匠地無文彩、入出世中不出世。莫行玄処路、入功忘位在自己。功尽合平常、合那人時。平常位。

(8) 上堂。僧問、如何是学不停午。師云、海底銀輪秀。習学底ワ、浅ヨリ深ニ入処。午ハ、功処。不停。

位ニ就タゾ。海底ハ、深処。僧云、如何是「意不立玄」。師云、無影樹頭春。玄

位ニ極レバ、銀輪秀。位ニ極レバ、意ガ無ケレバ、帶偏タゾ。無影樹ハ、位裡玄処。春ト云テ、帶功タゾ。僧云、恁、則未露之機、(6ウ)當鋒得妙。

未露機ハ、文彩不痕、正位。此ヨ。師云、亦須轉却。トハ、功位偏正回互ニ斗、窟宅僧。針鋒ヲ雷ノ、春色現ノヨト。

云、轉却後如何。師云、不落混融機。トハ、前ノ正偏功位交互シ、混融ノヲ、一向ニ、其ノサタモ無キ行履コソ、向上ノ作家ヨ。

師乃云、窮微喪本、躰妙失宗。微妙、宗本ハ、皆是正位。窮ノ体レバ、ソノサタ無ゾ。此ヲ、喪シ失スト云タゾ。一句截

流、洌源及尽。トハ、最初ノ脚力ヲ以テ、極位向上ヲモ及スルゾ。此デ、則又是以金針密処、不露光銚。

大乘云、位中消玉線通時、潜舒異彩。大乘云、喚得却来処。前ノ金針ニ、ハヤ玉線ヲ貫タゾ。雖然如是、猶

是交互双明。トワ、偏正交互シ、功位双明ノヲ置テ、且道、巧拙不到、作广生相委。功拙トハ、宗門ノ唱ナリ。

功ソ、位ソ、偏ソ、良久云、爰ガ、巧拙不到ノ処。雲蘿秀、処青、(陰)岩樹高、(20)低翠、(シ)鎖深。

此句ハ、深山幽谷ノ体。一向人跡稀ニシ、何ノアツカイ、唱モ無キ処。向上ノ人ノ居処ヲ云タゾ。文章ニ取合テハ、見ベカラズ。

(20) 面本ハ「低」ヲ「時」ニ作ル

〔徹通和尚之註〕

學不停午ノ夜半正明ニ。意不立玄ノ天曉不露。不落混融機ノ喫粥喫飯、是何有機息。金針密處、不露光鉞ノ位中消息。玉線通時、潜舒異彩ノ喚得却來處。雲蘿秀處青蔭合、岩樹高低翠鎖深ノ教吾如何說、所以道、功拙不到處。

(9) 上堂云、轉功就位、是向去底人。玉韞荊山貴。白圭ハ、功ノ文章。荊山ハ、位。此句ハ、(7オ) 見ニク

イゾ。轉處、向去ハ、句ノ上ニ不レ見。此玉ハ、ナ和ガ。轉位就功、是却來底人。紅

片雪春。紅炉ハ、本イ。片雪・春、二共ニ、今時ノ功。功位俱轉、通身不レ滞、撒

手忘レ依。トハ、唯展タ兩手タゾ。(21) 石女登機、密室無レ人掃。功ヲモ、位ヲモ轉ジタホ

バ、文彩モ不レ彰、梭ヲ可レ抛沙汰モ無ゾ。密室ナホドニ、可レ掃一塵モ。正恁厂、絶氣息一句、

作广生相委。トハ、色体ノ良久云、飯根風墮葉、照尽月潭空。葉ト云イ、喫ト云ハ、

根、潭空トハ、何ノサタモ無ク、打成タ処ヨ。大乘云、通身合大道ナリ。

〔徹通和尚之註〕

荊山ノ位也。片雪ノ功。石女夜登機、密室無人掃ノ轉功就位。飯根風落葉ノ色体泯位。照尽月潭空ノ通身合大道。

(21) 寛本、万本、面本「女」ノ下ニ「夜」アリ。

(22) 大本ハ「墮」ヲ「落」ニ作ル

(10) 上堂云、龜中弁細、門裡出身。(ハ脱カ) 龜中ト、四大合成ヲ云タゾ。細ヲ弁トハ、四大ヲ、一心ヲ本トシテ。門トハ、六根門也。出身トハ、此

六根ハ、一氣ヨリ始。石女不孤、機梭暗泄。トハ、一心欲生ント、未生、一氣欲發、未發姿ヲ云ナリ。 細中弁龜、

身裡出門、暖氣雖消、岩上雪、米壺未破、功前春。氷壺 劫ノヲ、トハ、ゲニモマダ、一氣欲生サカイナホドニ、

紅白ノ色ヲ、六門活計、冷飈然、万頃瑠璃寒徹骨。トハ、一切ノ景色モ、未見ヘ子バ、春ノ始ナレ共、只冬ノ末タゾ。陰陽

ノサカイ。且道、滴水滴凍、一句作广生相委。滴水、春ノ始也。滴凍ハ、マダ冬末也。マツサカイヲ乞也。 良久云、

飯堂問ニ取聖僧。大乘云、古今難答処也。聖僧、何ントカ云ン。

〔徹通和尚之註〕

門裡出身ハ透法身句也。身裡(出)門ハ得法身句也。飯堂問取聖僧ハ古今難問難答処也。

(11) 上堂云、居動而常寂、処暗而愈明、不墮二邊機、當頭誰敢觸。(23) 大本ハ「不涉二機」ニ作ル。

誰敢触トハ、當頭ニハ、正按傍提有、(24) 大本「誰」ヲ「難」ニ作ル 手ガ付ラレヌ処タゾ。正按トハ、中正ナリ。傍提トハ、中偏也。有、抛トハ、中偏ヲ抛トシ、去又、動ト、明

トハ、中偏ヲ抛トシ、去又、動ト、明。當頭、不當頭也。真慈妙應無窮。トハ、法身ノ夏也。更ニ方所モ無ゾ。 雖然、句在ニ未萌前、要

且不離當處。未萌前ヲ、法身ノ境界、舜光土也。妙應無窮ト見レバ、日用ノ當処ヲ離レヌゾ。 且道、畢竟如何。白雲留不

住、依^テ旧^ニ出^ツニ青霄^ヲ。^(霄霄)也。傍提^ワ、正按^ノ用^ベ。位裡^{ヨリ}、今^ハ今^ハ出^{ヤウ}。^(8オ)

〔徹通和尚之註〕

居動而常寂^ハ動全靜^ニ。処暗而愈明^ハ暗全明^ニ。不涉二機、当頭難敢触^ハ向上去機^ニ。正按^ハ当頭^ニ。傍提^ハ不当頭^ニ。白雲留不住^ハ轉功^ニ。依旧^ハ就位^ニ。出青霄^ハ轉位^ニ。今時^ニ。

(12) 上堂。僧問、泥牛常運^ニ步、為^レ什^ニ广^ニ不^レ許^ニ觸^ニ波^ニ瀾^ニ。泥牛^ハ、無^レ兩角、位裡^ニ主^ニ。

波瀾^ニ觸^レ子^ニ。師云、虛^ニ空^ニ暗^ニ点^ニ頭^ニ。點^ハ頭^ハ、轉^ニ處^ニ。是^ハ、深^ニキ心^ニ得^{アリ}。僧云、

恁麼則子就^レ父^ニ、猶有^レ依^ニ倚^ニ。子^ハ々々^ハ二^ハ字^ハ、子^ニ孝^ニ養^ノ意^{アリ}。父^ハ、願^レ子^ノ情^{アリ}。爰^ハ、マダ一般^ニニハ成^ヌ處^{タゾ}。師云、更有^レ

一人未^ル肯^ハ在^ハ。人^ヲ云^{タゾ}。僧云、未^レ審^ニ是^ニ什^ニ广^ニ人^ニ。師云、紅^ニ爛^ニ通^ニ身^ニ火^ニ裡^ニ看^ニ。

極^ニ位^ニ向上^ニ。火裡^トハ、沒^ニ蹤^ニ跡^ニノ處^{ナリ}。師乃云、虛^ニ玄^ニ及^ニ尽^ニ高^ニ處^ニ偏^ニ枯^ニ。明^ニ湛^ニ不^レ揺^ニ、想^ニ中^ニ滲^ニ漏^ニ。

此二句ハ、削^テ云^義。虛玄ノ大道ト云^タ程ニ、本^ニイ^タタゾ。此^ハ及^ニ尽^ノモ、マダ偏^ニ枯^ニトハ、片^ニ落^ニタ意^ニ。徹底^ニ虚^ニ玄^ニデハ無^ゾ。明^ニ湛^ニ不^レ揺^ニハ、精^ニ明^ニ湛^ニ不^レ揺^ニナルモ、想^ニ中^ニニ滲^ニ漏^ニトハ、マダ識^ニ陰^ニヲ避^ヌゾト云^義。野^ニ外^ニノ羶^ニ腥^ニ、肉^ニモ爛^レ、皮^ニモ穿^テ、晒^キツタ白^ニ骨^ニニ成^タ處^ヲ、湛^ニ不^レ揺^ニト云^ニ。滲^ニ漏^ニハ、煩惱^ニ。妙^ニ藥^ニ大師^ニ云、一^ニ欲^ニ漏^ニトハ、欲^ニ界^ニノ一^ニ切^ニノ煩惱^ニ、二^ニ有^ニ漏^ニトハ、上^ニ下^ニ兩^ニ界^ニノ一^ニ切^ニ煩惱^ニ、三^ニ無^ニ明^ニ漏^ニ

トハ、三^ニ界^ニ無^ニ明^ニ煩惱^ニ是^ニ。早^ニ竟^ニ、此^ハ一^ニ段^ニ。是^ニ以^テ、ト云^{ヨリ}、下^ニハ、皆^ニ千^ニ峰^ニ瀉^ニ、翠^ニ、万^ニ一^ニ谷^ニハ、尽^ニ功^ニ就^ニ人^ヲバ、ドコ迄^モ削^{ナリ}。是^ニ以^テ、是^ニ自^ニ然^ニノ無^ニ心^ニヲ云^ニ。千^ニ峰^ニ瀉^ニ、翠^ニ、万^ニ一^ニ谷^ニ

(25) 面本ハ「高」ヲ「見」ニ作ル

流^ス春^ハ。峯^タ瀉^レ翠^タ共^ニ不^レ知^ハ、谷^モ帶^レ春^ハ。灵^{（靈）}苗^タ秀^テ而^モ氣^ハ未^レ萌^ハ、瑞^ニ彩^ヲ分^レ而^ハ（^{（ウ）}）天^{（天）}欲^ス曉^{（曉）}。

トハ、秀タレ共、秀タト知ラ子バ、未萌ノ時。分タレ共、光融^レ水月、影混^レ空潭^{（潭）}。是モ、月、分タル共、分タトモ知ラ子バ、未^レ曉^{（曉）}天タゾ。功位一如。

ワ、思ハズ、潭モ、月ヲ移ント思テハ、澄ヌゾ。如此。叶^{（叶）}喫^{（喫）}忘^{（忘）}痕^{（痕）}、如何^{（何）}弁^{（弁）}異^{（異）}。叶^{（叶）}喫^{（喫）}トハ、被^{（被）}自^{（自）}焚^{（焚）}ニ、無心ノ行履ニ成ルガ、空^{（空）}「却^{（却）}已^{（已）}前^{（前）}自^{（自）}」己^{（己）}。叶^{（叶）}喫^{（喫）}忘^{（忘）}痕^{（痕）}、如何^{（何）}弁^{（弁）}異^{（異）}。叶^{（叶）}喫^{（喫）}トハ、被^{（被）}

子バ、喫^{（喫）}ノ、々タ知ラヌニ叶^{（叶）}。知^{（知）}レバ、痕^{（痕）}ガ木^{（木）}龍^{（龍）}吟^{（吟）}子^{（子）}夜^{（夜）}、妙^{（妙）}在^{（在）}未^{（未）}聞^{（聞）}前^{（前）}。是^{（是）}モ、無心ノ付^{（付）}ゾ。知^{（知）}ヌヲ、弁^{（弁）}異^{（異）}ト云タゾ。知^{（知）}ハ、趣^{（趣）}。木^{（木）}龍^{（龍）}吟^{（吟）}子^{（子）}夜^{（夜）}、妙^{（妙）}在^{（在）}未^{（未）}聞^{（聞）}前^{（前）}。作用^{（作用）}。吟^{（吟）}ノ

モ木龍ナレバ、吟タト不^レ知^ハ、聞^{（聞）}テモ、聞^{（聞）}タト知^{（知）}ラ子バ、未^{（未）}聞^{（聞）}ノ前^{（前）}ヨ。サテ、妙^{（妙）}ナ聞^{（聞）}ヤウヨ。

〔徹通和尚之註〕

泥牛常運歩^{（足カ）}ハ入海没消是也^{（是カ）}。虚空暗點頭^{（出）}ハ白雲子青山父^{（出）}。更有一人未肯在^{（出）}ハ向上、父全不顧^{（出）}。千峯瀉翠^{（出）}ハ再法皈身也^{（出）}。万谷流春^{（出）}ハ又安自己^{（出）}、恁^{（出）}广来^{（出）}。功位一如。木竜吟子夜ハ聞其異音、聞得者稀故^{（出）}。妙在^{（出）}未聞前。

(13) 上堂云、藏身処没蹤跡、浩^{（浩）}意融^{（融）}、眨^{（眨）}誰^{（誰）}弁^{（弁）}的^{（的）}。没蹤跡トハ、功ヲ尽^{（位）}ノ、本^{（位）}イノ大事ニ趣向スル時ナホドニ、弁^{（位）}処ハ無^{（位）}ゾ。

没^{（没）}蹤跡^{（蹤跡）}ハ処^{（処）}莫^{（莫）}藏身^{（藏身）}、驀^{（驀）}移^{（移）}歩^{（歩）}ハ妙^{（妙）}難^{（難）}尋^{（尋）}。跡^{（跡）}ヲ没^{（没）}ノ処^{（処）}コソ、妙^{（妙）}処^{（妙）}ヨ。位^{（位）}裡^{（裡）}ノ様子ハ、蹤^{（蹤）}枯^{（枯）}

根^{（根）}石^{（石）}裡^{（裡）}花^{（花）}明^{（明）}秀^{（秀）}、トハ、枯木、石頭ニ花秀トハ、妙^{（妙）}切^{（切）}外^{（外）}威^{（威）}光^{（光）}密^{（密）}々^{（々）}新^{（新）}。トハ、現^{（成）}上^{（上）}底^{（底）}ノ人間ノ風興ニワ、似^{（似）}ヌゾ。

所以^{（カ）}道^{（道）}、三十年在^{（テ）}薬山^{（薬山）}、只^{（只）}明^{（明）}此^{（此）}夏^{（夏）}、諸^{（諸）}仁^{（仁）}者^{（者）}、作^{（作）}麼^{（麼）}生^{（生）}是^{（是）}此^{（此）}夏^{（夏）}。良久云、

白髮顔如^レ玉、^ス冥^一然不^レ墮^今。

大乘云、却来句^レ。早竟老人カトスレバ、顔如^レ玉美^レ。少人カト^(9オ)スレバ、白髮^レ。位ニモ、沈ヌゾ。サテコソ、良

久ナ^レ。

〔徹通和尚之註〕

藏身処^ハ到自己也^〱。没蹤跡^ハ到向上也^〱。此事^ハ却来一氣也^〱。白髮、顔如玉^ハ却来句^レ。以云向上玄機也^〱。冥然不墮^(霊)今也^(マア)。

(14) 上^一堂云、無功^(妙)旨、^(不)涉^レ玄微^ニ。

々々トハ、極位向上^レ。爰^ハハ、功ヲ歴テコソ、到テ妙旨ヲ可^レ得ケレ、無功トハ、一向ニ階級

ヲ不^レ蹈^メ、妙^一一念潜⁽²⁶⁾通、全機密^ニ運^フ。

一念トハ、無念^レ。潜通シ、密ニ運トハ、更ニ修進セス^メ、我モ不^レ知^メ、妙旨ニ叶タゾ。向上・向下ヲ不^レ

欠^ヲ、全機ト云。

易⁽²⁷⁾奏高山流水曲、

トハ、松風ノ吟、溪水ノ響、満^レ耳タゾ。是ハ、難^レ傳虚空夜明、目前ノ作用、悉ク道人ノ活計^レ。程ニ、易ゾ。

符⁽²⁸⁾。夜ト明ト、合符スル処ハ、更ニ難^レ傳^{シル}。五符ノ内ニ、夜明符、其ノ一^ニ。

暗^一中冥^一句許^レ誰^一知^ニ。大乘云、主化^一外威光須^レ

自^ル看^ニ。云、大乘云、實中實^(實)。誰モ見ル景色^ニ。

雖^ニ然恁^ト、不^レ行⁽²⁸⁾青嶂路⁽²⁹⁾、争到^ニ白雲根^ニ。大乘云、不^レ

知^レ功^一處、深^一處云々。青嶂ハ、頂^ニ位^ニ。此ヨリ、路トハ、功^一處エノ路^ニ。白雲ハ、功^ニ。根トハ、青峰ノ位^ニ。如此見^レバ、一致タゾ。

〔徹通和尚之註〕

無功妙^ニ音^一旨^ハ即時妙^ニ處^ニ。一念潜ニ通^ハ一氣生^レ。易奏空山流水曲^(高)ハ目前作用猶可易。燕

(26) 寛本・万本ハ「潜」ヲ「纒」ニ作ル

(27) 大本ハ「高山」ヲ「空山」ニ作ル

(28) 大本ハ「行」ヲ「到」ニ作ル
(29) 万本ハ「嶂」ヲ「峰」ニ作ル

暗中吳句／主中主也▽。化外威光／賓中賓也▽。不到青松嶂路、爭到白雲根／不到位、不知功處深也▽。

(30) 寛本・万本・面本ハ「卒」ヲ「乖」ニ作ル

実ノ相タヅ。妙化潜〔敷、無中忽〕有トハ、天ノ陽氣ヲ下シ、地ノ隤氣ヲ上テ、互ニ相通_{下上}、一瀉_下発_上ノ相形成タヅ。此時、サテ、失_レ湛卒_レ真タハ、九霄〔9ウ〕浄_キ一_ノ処_ノ廓_ノ無_レ

疆、
四一海清キ時明(31)徹ニ底。
九霄淨処トハ、妙句ヲ數ク已前タゾ。
四海清時トハ、漚紋擬ヌ前ノ湛ノ処ニ。
若知有ニ者ケ消

息、堪^シ報^ルニ不報之恩^ヲ。
天地ノ恩、父母ノ恩、国王ノ恩、衆生ノ恩、此四恩ヲ知ルヲ、人ト云イ、不知レ之ヲ、非人ト云ゾ。
 其^レ或^ハ未^ダ焚^バ、

天水混^ミ・眇^{ミョウ}秋一色。
タラバ、今時ノ上ナリトモ、一漚已前ノ湛水ナルベシ。衆星攢^{アツル}・処紫微。

高^シ。
紫微宮ト云モ、
北辰ハ、本^(魚)イ^レ。
極位^レ。

〔徹通和尚之註〕

妙化潛、敷^マ入位裏轉側也^マ。無中忽有、漚紋纔擬入轉内（出）外也^漚。九霄淨処廓無彊入九帶共得時、有何極也。海清時徹底明入此時内外通方。四寶主共得。若□如是、見報、不報之恩也。天水混時秋一色入今時上也。衆生攢処紫微高入日月星辰、歷々明々様子。

(16) 上堂云、家音歴々、的^ニ要難^レ通。家音^ハ々々トハ、洞上ノ家風也。唱ヲ云タゾ。的要^ノ二字ヲ、正偏ト云ハ、邪也。正偏共難^レ通也。コソ、的要

ナ^レ紹^レ了非功、忘^ス其擔荷^ヲ。正偏ノ二ヲ荷^ヘ間ヲ、功処ト云タゾ。紹^了非其功ナホドニ、忘^ス荷^ヲ兩端^ニゾ。戸^ノ外有^レ雲從斷^{マカス}

徑、坐中無^レ喫勝燃^レ灯。戸^ノ外ハ、功処・賓位也。斷^レ徑トハ、座中ヘノ徑ヲ斷^ノゾ。坐中ハ、主ノ居処也。無^レ喫トハ、功位ノ光影ハ無^ケレ共、天竺ノ主ノ威

光ガ、勝^レ灯^ヲ燃^ス、既知^ニ活計現成^ヲ、便合^ニ深^ニ沉消^ニ耗。活計現成ハ、坐中ノ消息也。功燭テ輝タゾ。成^レ名逐タ処也。爰ニ、トツクト

合^レ消耕ヲトハ、正^ニ為^レ什^ハ更^ニ有^ニ途中^ニ更^ニ。是ハ、洞上ノ一良久云、功^ヲ齊^ノ超^レ歷^ノ劫^ヲ、運^ノ

步^ノ不當^レ陽。功^ヲ齊^ノ(10オ)トハ、功^ノ就^ノ功也。超^レ却トハ、就^ニ位タゾ。運^ノ步トハ、不^レ居^ニ正位義也。大乘云、不^ニ是^ニ目前^ノ機^ニ、九轉坐ノ眨、途中坐ト云ハ、是也。宏智、那邊途中

客ト云ハ、様子別也。

〔徹通和尚之註〕

戸外有雲從斷徑ハ功也。坐中無照勝燃灯ハ位也。功^ヲ齊^ノ超^レ歷^ノ却^ノハ轉功到位也。運步不當陽ハ不是目前機也。

(17) 上堂。僧問、密々現^ニ成、還得^レ尊貴也^ハ無。大乘云、位裡妙容也。曾不^レ存^ニ尊貴也。師云、用在^ニ萬

機前^ニ、不^レ勞^ニ呈^ニ巧^ニ妙^ニ。トハ、位裡ノ妙容ナレハ、尊貴ガ無^ケレバ、僧云、恁^ハ則^ハ一

句^ハ然^ニ、通^ニ途^ニ絶^ニ朕^ニ。此僧、聞得タゾ。然^トハ、功位ニ不^レ沈也。師云、是阿^ハ那^ハケ^ハ一句^ハ。

ト、此僧ノ足モトラ、僧擬議。ハ、タシカニ云ントゾ。師云、過犯弥天。トハ、落話。前朝断舌ノ師探竿スルナリ。

乃云、刹塵一掃大小量空。刹塵トハ、微塵。刹土トハ、大小量空トハ、独立ニメ、中。此二ノ大小ヲ一掃スレバ、中ノ人斗タ念切兩融前後際断。念トハ、今日ノ一念。切トハ、久遠切。融レバ、阻無。サテ又、二共ニ際断。不離當處、圓

應無窮。安ニ住是中、周旋不怠。早竟、兩位ヲ不欠メ、又、不墮兩位。去社、正中來ヨ。正恁广時、木童

敲月戸、六用虚明。却來ノ姿。無心ノ作。石筍暗抽條、孤標。秀密。是ハ、向去消

息。密処。且道、是誰境界。良久云、江岸風濤急、芦村景色幽。大乘云、活句。若何共付滋味、

死句ナリ。

〔徹通和尚之註〕

密々現成位裏妙容也。曾不存尊貴。木人敲月戸へ却來。石筍暗抽條へ向去。江岸風濤急、芦村景色幽へ活句。若付滋味而見死句。

(18) 上堂云、見聞不昧、声色純真。大乘云、見聞ノ妙、超彼声色云々。動靜無虧、

去留本妙。トハ、行住坐臥ノ上デモ、分。若也尽底、兼當得去、始信法々圓成。別ノ意解ナケレバ、妙。

トハ、作善タモ、作惡ソモ、一便能随处立宗、返常合道。宝鏡當基如ク、來者ノ影点モ其軌則ヲ存子、皆是純真。便隨處立宗、返常合道。ガ現タゾ。不断声色墮トハ、

(32) 大本ハ「木童」ヲ「木人」ニ万本ハ「本童」ニ作ル

(33) 大本ハ「石筍」ヲ「石笋」ニ作ル

此行履ヲ其^レ或未^レ焚、滿^一襟秋^一露^ニ湿、一鑑冷無^レ痕。

月下ニ、夜深ル迄立テ、衣ノ露ニ湿タヲモ、知ラヌ行リヲ云^レ。爰ガ、

一閑人^ニ。空^ハ却已前自^レ己、淵底ヨ。

〔徹通和尚之註〕

見聳不昧、声色純真^ハ見聞妙超彼声也^レ。尽底兼当去^ハ一句便到^レ。滿襟秋露湿、一鑑冷無痕^ハ是活句^ニ。你如何見^レ。

(19) 上堂云、未^レ休々去^レ、未^レ歇々去^レ。万縁ヲ能ク休^シ去^レバ、豁^ッ然^ト宝鏡當^ル臺、^タ如ク、肚裡^ガ、明白ニ成

時^ソ。此無限清^一光滿^一戸。戸トハ、六戸^ニ。六道ノ所以道、一句^ハ(ハオ)子當^レ明不^レ當^レ喫、

一句子當^レ喫不^レ當^レ明。清光ト云ヨリ、明喫ノ文章ハ出タゾ。宝鏡ノ清光^ニ。明喫ハ、鏡ト影^ニ。是ハ、体ト用タゾ。此二法ヲ云立テ、一句子、々々々トハ、有时

ハ、ト云義^ニ。當ノ字ガ、肝要ダゾ、明^ハ。或若當^レ喫當^レ明、又作^ハ广生。當トハ、明喫ヲ、休^ハ功^ニ。喫ハ、位イ^ニ。此ニヲ休歇^ニ。去、歇去タ処^ニ。

良久云、枯^一枝頭上雪、不^レ待^ニ大陽春^一。冬ノ雪ナラバ、大陽春ニ逢テ、消ベキゾ。是ハ、^レ。枯枝頭上ニアラズンバ、フラヌ

雪タゾ。枯枝トハ、一切ヲ能休歇去タ時、那人ニ成タゾ。大陽門下ナ^レ。此ニ墮ヌゾ。是モ、空^ハ却已前自^レ己ヨ。一段難^レ見上堂^ニ。

〔徹通和尚之註〕

宝鏡当台^ハ一段光明亘古今也^レ。一句子当明不当照^ハ色時無位^ニ。一句子当照不当明^ハ在位暗非^ハ色也。虽然、本無隔也^レ。当照当明^ハ那边一位、妙理^ニ。枯枝頭上雪、不待大陽春^ハ如^ハケ句以雪^ハ。

為主、蓋是黒中白也。曾不今眈色、為什广在位曰雪。冬是於四眈極。雪冬蔵極。極上。極也。故云然。〱。

(20) 上堂云、莫怪石頭饒舌。便道、吳源明皎潔。〱

〱石頭トハ、無心ニノ不動ナレバ、那人ニ用ル。饒舌トハ、

向上ニ行履ノ人ノ出語ハ、石頭ノ吟ヨ。更ニ理ヲ付ベカラズ。此理ヲ、只デワ無ゾ。水ノ深時ハ、石頭ハ蔵ル、ゾ。吳源ヲ能極メ、乾ノニ依テ。一滴ノ湿モ無レバ、皎潔。サテコソ、功

成。暎不レ失レ虚、妙。尽明無間。〱

功動ヲ歴尽、皎潔。〱本有天然ノ暎、発タゾ。此ハ、虚一位ナレバ、不レ失。妙。明田地共、此一位ヲ云ゾ。妙尽

トハ、尊貴ヲ不レ守。此時、明ナリ。如。今果。尔。難蔵。〱

トハ、遠ク余所ニハ、見ベカラズトナリ。尽逐。秋。光漏泄。〱秋光トハ、水天

一色ニノ、芦花明月、相エイノゾ。秋色トハ、〱

世知・仏知共ニ乾ノ、閑道人ノ行履。為。報海。内道人、参。取。中。眈節。〱

是ヲ、向去ノ修妙トハ、見ベカラズ。得。向上清。用。人ノ、今時受用底ヲ云。

〔徹通和尚之註〕

吳源皎潔ハ石頭和尚参同契語是也、間、為師者不是云。〱。海内道人ハ坐中僧。〱。参取。中時節ハ位裏消足。是知見著云。〱。

(21) 上堂。僧問、午。燈非。暎。燭。夜。煙滿。天紅眈如何。〱

トハ、午日ナレ共、暗ク、夜半ナレドモ、明ナゾ、是ハ、

回互ノ消息。サテ。師云、猶墮。傍来路。ハ、暗ナレバ、不回互タゾ。僧云、如何是何上

之機。師云、明暗尽、⁽³⁵⁾ 明暗ノ沙汰尽タ処コソ、向上ノ

幾^(機)。大乘云、^(機) 冥尽体無依^(機)。

師乃云、披毛遊⁽³⁵⁾ 火

(35) 大本「不」ヲ「非」ニ作ル

聚、焰^(ニシ) 裡藏^(ニシ) 身、

火聚焰裡ハ、位中^(ニシ)。底デ、披毛^(ニシ) 遊^(ニシ) 戴^(ニシ) 角混^(ニシ) 塵泥、光^(ニシ) 中^(ニシ) 轉^(ニシ) 歩^(ニシ)。

塵泥光中ハ、今時^(ニシ)。兩角生^(ニシ) ノ^(ニシ) 處^(ニシ)。

轉^(ニシ) 歩^(ニシ) トハ、今時^(ニシ) ニ^(ニシ) 不^(ニシ) 墮^(ニシ)。

灵^(ニシ) 珠絶^(ニシ) 点、

片⁽³⁷⁾ 玉無^(ニシ) 瑕。珠ハ、海底ノ珠^(ニシ)。色赤シ。絶点

(37) 面本ハ「下」ヲ「下」ニ作ル

玉ハ、山上ニアツテ、色白シ。無^(ニシ) 瑕トハ、功^(ニシ) 處^(ニシ) 一片ニ^(ニシ)、交物無^(ニシ)。

一^(ニシ) 念廓^(ニシ) 融、一念トハ、無念^(ニシ)。此時、廓融トハ、正念無^(ニシ) 私^(ニシ)。爰ハ、向上位裡也。

千機秀^(ニシ)

發^(ニシ)。機^(ニシ)、ハタモノ^(ニシ)。文彩分明^(ニシ)。秀發^(ニシ) ノ^(ニシ) 機^(ニシ)。今時^(ニシ) ノ^(ニシ) 機^(ニシ)。

正恁^(ニシ) 广^(ニシ) 眈^(ニシ)、坐^(ニシ) 却^(ニシ) 傍^(ニシ) 来^(ニシ)」(12才)路^(ニシ) 子^(ニシ)、更有^(ニシ) 道^(ニシ) 得^(ニシ) 底^(ニシ) 广^(ニシ)。

一列功^(ニシ) デ、位^(ニシ) ヲ^(ニシ) 帶^(ニシ)、位^(ニシ) デ^(ニシ) 功^(ニシ) ヲ^(ニシ) 帶^(ニシ) ビ、早竟功^(ニシ) 位^(ニシ) ノ^(ニシ) 二^(ニシ) 位^(ニシ) ヲ^(ニシ) 以^(ニシ) テ、商量スルハ、此僧^(ニシ) ノ^(ニシ) 問^(ニシ) 處^(ニシ)、傍^(ニシ) 来^(ニシ) ノ^(ニシ) 路^(ニシ) ヲ^(ニシ)。

良久云、歷^(ニシ) 然^(ニシ) 超^(ニシ) 化^(ニシ) 表^(ニシ)、浩^(ニシ) 劫^(ニシ) 躰^(ニシ) 難^(ニシ) 分^(ニシ)。

化表トハ、目前^(ニシ)。浩劫ハ、位裡^(ニシ)。今時受用屋裡人^(ニシ) ヲ^(ニシ)。此上堂ヲ、卦^(ニシ) ニ^(ニシ) 合^(ニシ) テ^(ニシ) 見^(ニシ) タ^(ニシ) 人^(ニシ) モ^(ニシ) アルゾ。

〔徹通和尚之註〕

午灯非照燭ハ那邊真到^(ニシ)。今時作用奴兒婢子辺^(ニシ)。夜炬満天紅ハ今時作用、来^(ニシ) 未^(ニシ)。那邊真源到、便是^(ニシ)。虽然是^(ニシ)。為師单提^(ニシ)。明暗尽時俱非照ハ照尽躰無依^(ニシ)。披毛遊火聚、焰裡藏身ハ自己賓主也。暗中明可見^(ニシ)。戴角混塵泥、光中轉歩ハ今時主眼^(ニシ)。明中暗可見、下曰為主^(ニシ)。歷然超化表、浩劫^(ニシ) 體難分ハ真到威音那畔^(ニシ)。

(22) 上堂云、明簾未^(ニシ) 捲^(ニシ)、秘^(ニシ) 殿^(ニシ) 舒^(ニシ) 光^(ニシ)。

明簾トハ、夜明簾^(ニシ)。夜半正當ヲ云ナリ。王子御タ

(38) 大本ハ「舒光」ヲ「光舒」ニ作ル

社去妙^(ニシ) 躰^(ニシ) 潜^(ニシ) 彰^(ニシ)、王子妙^(ニシ) 体^(ニシ)、只^(ニシ) 今^(ニシ)、卒度露^(ニシ)。

真機尚^(ニシ) 密^(ニシ)。

誰モ見タ物ガ、有テコソ、

直^(ニシ) 得^(ニシ) 竜吟^(ニシ) 碧海、鳳舞^(ニシ)。

丹青。

天子ヲモ、国家ノ竜鳳児ト申ゾ。禽獸ノ王ナレバ。聖人出レ世ルニハ、必如此ノ瑞相現スル。サレバコソ

大地鋪レ、祥、長空布レ瑞。

トハ、一天四海、尽ク正恁广、借レ位誕生一句作广生相委。

位裡デ誕生ナ程ニ、未レ帶ニ今時機。外頭ヘハ

不レ出、位裡功ヲ帶ナリ。良久云、金印未レ開沙界静。玉輪転処不レ當風。

ゲニモ内紹ナホドニ、金印ヲ開テノ用処ハ、

誕生ガ、玉輪ノ転シヤウタゾ。風ハ、家風。是モ位裡不レ沈一機ヲ、誕生(12ウ)ト云タゾ。

〔徹通和尚之註〕

明簾未捲、秘殿光舒入位中深处、密生灵気。未転テ功。金印未開沙界静、玉輪転処不當風(風)借位明功。一転未帶今時機。

(23)

上堂云、裡許明如日、絲毫無レ隔碍。

トハ、此一主人公ヲ能ク明レバ、絲毫モ無レ隔、久遠モ今時モ一牧(牧)四聖六凡共ニ、不レ

隔ゾ。一切一中サテ又、一

一不レ假胞胎、四海孰為レ主宰。

四大合成ノ身ハ。如レ今徹底露一室借胞胎タゾ。

々、運用随縁常自在。

拳手伸脚タモ、全身奉重、他物ニアラザル。サテ、露堂々デハ無イカ。

雖然如是、猶是平常行

履。且道、超一宗越一格、如何相委。

トハ、十二時作用ヲ離レテハ、サテ、何ト見ベゾ、トナリ。

虚空無レ面目、

不レ用ニ巧粧眉。伊レガ、全体ヲ云タゾ。

〔徹通和尚之註〕

『真州長蘆了禪師劫外錄抄』の研究(上)(石川)

裏許明如日ハ夜半正明也。洞然明白也。虚空無面目、不用巧粧眉ハ他無面皮、誰敢弁取。

(24) 上堂云、終日分別、只是分別自心。トハ、是非ゾ、善惡ゾ、憎愛ゾ、冤親ゾ、ト分別スルハ、何者ノワザゾ。此ノ自心ノ

ゾ。堪笑念「彼觀音力」畢「竟還着於本」人、本人トハ、自心ノ。念「彼觀音」力ハ、依教ノ修行タゾ。夫ハ、堪笑ト、拳テ取

ラスゾ。畢竟、此自心ニ求付ンガ為メ。黃頭老納有「理難伸」。トハ、四十九年ノ說法ニモ、更ニ分明ニ述ラヌ理ガ有ルゾ。為「什」有

(39) 理難伸。賊「是家親」。物ヲ分別スルハ、賊ナリ。其ノ賊コソ、自心ヨ。更ニ他ヨリ不來。家親「(13才)タゾ。如此見屈」、自心ニ契當シツレバ、分別取相モ、不苦

ヨ。洞上デ、分別トハ、偏正黑白ヨ。自心トハ、一切一中タゾ。

〔徹通和尚之註〕

終日分別自心ハ是非好惡スレバ、□。有裡難伸、賊是家親ハ家醜者可揚外辺。

(25) 上堂云、僧問、影草不施、千途罷賞。未審、其中「作」廣生。探竿影中トハ、賊人家内

ヲ試ルヲ云。千途罷賞トハ、種々様々ニ、色々ノ行ダテヲ成メ、人ノ心ヲ量リミルヲ云。不施・罷トハ、更ニ不窺一処ヲ問。師云、當「堂」不「正」坐。

トハ、主相ノ僧云、恁「廣」則全「功」轉去也。全功ワ、位ニ就タ処。底ヲモシ、無イ主。轉ズルナリト問タゾ。師云、轉向「什」廣

処去。此僧ノ足土ヲ試タゾ。僧云、古「渡」月「明」秋色晚。此句ハ、大功一色ノ処。轉「全」功、又、前ヘノ大功ノ処ヘ出タヨト。師云、

(39) 大本ハ「裡」ニ作ル

(40) 大本ハ「當頭」ニ作ル

須^シ是^ニ者^ノ駢^{カンナル}漢^トハ、駢^ト前馬後ノ漢^ト、落^シタゾ。此^底屋意ハ、当堂ニ不^レ正坐^ト。師乃云、人

迷⁽⁴¹⁾曉^イ徑^ニ、戸掛^{カク}凋^ニ林^ニ。出入ノ門戸モ、蘿ガ閉テ、出^レ没^レ混^ニ融^ニ、凝^ニ流^ニ皎^ニ潔^ニ。当堂不^レ迷^ル。

正坐主様子ヲ云タゾ。妙^ニ一^ニ躰^ニ冥^ニ一^ニ焚^ニ無^ニ影^ニ迹^ニ、通^ニ身^ニ及^ニ一^ニ尽^ニ不^レ當^ニ陽^ニ。是モ、向上ニモ、向下ニモ、水一

声松^ニ一^ニ韻^ニ一^ニ溪^ニ深^ニ、月^ニ色^ニ」(13ウ)波^ニ光^ニ全^ニ一^ニ躰^ニ妙^ニ。水声松^ニ一^ニ韻^ニ・月^ニ色^ニ波^ニ光^ニハ、目前ノ理ナレ共、一溪深、全躰妙トハ、深密ニシテ、不可思議ナ

リ。又ハ、無情說法共、可^レ見^ニ。正恁^ニ一^ニ眨^ニ、落^ニ一^ニ在^ニ誰^ニ一^ニ人^ニ分^ニ上^ニ。良久云、滿^ニ一^ニ船^ニ空^ニ不^レ夜^ニ、穩密上^ニ。

鈎^ニ一^ニ。漁人終夜釣、々ト思タ時ハ、空カツタゾ。可^レ釣^トト思ヲ、忘却^ニノ時、チャツト金リンガ、上^ニ鈎^ニタゾ。

〔徹通和尚之註〕

当頭不正坐ハ転功尽去^ニ。人迷曉徑、戸掛凋林ハ不拘偏正中間、有物^ニ。妙躰冥然無影跡ハ向上也。水声松韻一溪深、月色波光全躰妙ハ密々深々不思議、不可得句^ニ。又、無情說法可見^ニ。天真^ニ。道^ニ。是天真者、祖未來茲土、少林有妙訣也。滿船空不夜ハ有脚意^ニ。穩密上鈎ハ難測時節^ニ。

(26) 上堂云、雨洗^ニ摩尼^ニ増^ニ秀^ニ色^ニ。大乘云、淨裸々赤洒々、キラリツト物ノ事ヲ云^ニ。全^ニ身^ニ不^レ昧^ニ一^ニ絲^ニ頭^ニ。ス

チ程モ、暗イ⁽⁴²⁾。冥^ニ一^ニ河^ニ傾^ニ一^ニ瀉^ニ曾^ニ無^ニ間^ニ一^ニ缺^ニ、添^ニ得^ニ滁^ニ一^ニ山^ニ水^ニ逆^ニ一^ニ流^ニ。水ハ、東ヘ流コソ、順水ヨ。滁山水ハ、向^ニ西^ニ流^ニ。西ハ、

本イ^(位)。冥^ニ一^ニ河^ニト見^ニヨ。流^ニ。所以道、真^ニ一^ニ慈^ニ妙^ニ一^ニ應^ニ、赴^ニ一^ニ感^ニ隨^ニ一^ニ緣^ニ。トハ、見聞ノ精ハ、声色ニ引^ニレテ出^ニゾ。此一精明^ニ。大

(41) 大本「迷」ヲ「從」ニ作ル

(42) 寛本・面本・万本ハ「河」ヲ「源」ニ作ル

(43) 寛本・面本・万本ニ「曾」ナシ

寂光一中、本無_レ出_一沒。寂光土トハ、法心^(身カ)仏ノ位ヲ云タゾ。妙覺地也。大乘云、位一片也。雖_ニ焚_一恁_一、不_レ因_レ登_一絶_一

頂、争_ニ見_一白雲高_一。絶頂トハ、本位^(位)也。本位ニ、白雲功ハ無ゾ、無イ処ヨリ起_一白雲ゾト見_レバ、サテ、高クハ成_一ラヌカ、一切ノ声色モ、根本ヲ見_レ届_レバ、サタモ無_一処

ヨリ出_一タトミヨ。
他物デハ無_一ゾ。(14才)

〔徹通和尚之註〕

雨洗摩尼増秀色入淨躰々処也。是位也。大寂光中、本無出沒入位一辺也。

(27) 上堂云、鏡々相_一喫_一、光々相_一入_一。大乘云、理事一如也。兩鏡相_一喫_一、無_一影像也。猶_一是影像邊_一。削_一テ云_一タ

ゾ。直_ニ影像有_一頭々上_一現_一、物々上_一明_一。呼_ニ為_一了_一底_一人_一。了_一底_一人_一トハ、修行果滿_一ノ人_一ハ、頭々物々上_一、不_レ妨_一明白_一ナゾ。

直_一饒_一不_レ涉_一縁_一不_レ受_一位_一、トハ、了_一底_一人_一ハ、万縁ノ上_一デモ、夫_レニ引_レ子_一バ、明也。サテ又、位ヲモ守_一ラズ、二位ニ不_レ墮_一ナリ。全機混_一

密、一_一念_一浩_一融_一。功位一般ナレバコソ、全機混密「一念浩」融也。猶有_一類_一在_一。是モ、削_一テ見_一ヤウ也。宝鏡三昧云、天真而_一妙_一。不_レ属_一迷_一悟_一、々々ハ、

類也。作_一广生_一是異_一類_一。良久云、門々無_一隱_一的_一。此ハ、類也。門々トハ、六根門頭也。無_一隱_一的_一トハ、見聞ニ混而不_レ雜也。

妙在_一未_一分_一眈_一。大乘云、仏祖不_一伝_一妙也。未_一分_一時_一トハ、函蓋ヲ開_一カヌ先_一コソ、此心_一鏡_一ニ、影像ノ移_一ラヌ_一ヨ。爰ハ、異也。

〔徹通和尚之註〕

鏡々相照、光々相入入理事一如也。妙在未分時入仏祖不伝妙也。

(28) 上堂云、密々親^シ近去、^ル叱々奉^ニ重他^ニ、^ト大乘云、向去底^ニ、^ゾ猶存^ル孝^ニ娘^ニ在^リ。

不^レ見^ニ親近孝娘奉重^ニ、始得^レ尊^ニ、^大大功^ニ、^尊賞^ハ無^ゾ。雖^ニ然^ニ恁^ニ廣^ニ、^ト烏^ニ兔^ニ

任^ニ從^ニ更^ニ互^ニ照^ニ碧^ニ霄雲^ニ外^ニ不^レ相^ニ干^ニ。金烏、玉兔、兩輪輝^ニ處^ニハ、^功功^ニ處^ニ、^臣臣^ニ位^ニ。任^ニ從^ニト^ハ、^更更^ニ何^ニノ^アツ^ニカ^ニイ^ニモ^ニ無^ニ處^ニ、

真実尊貴ノ位。

〔徹通和尚之註〕

密々親近去^ハ向去底ノ人^ニ。鳥兔任從更互照、碧霄雲外不相干^ハ兩門正^ハ、穿^ニ。兩門者、日月。日是今時、月是功處、^ケケ々^ニ處^ニ穿却時、方倒位、故云、不相干。

(29) 上堂。僧問、不^レ慕^ニ諸^ニ〔聖、不重〕己^ニ灵^ニ叱^ニ如何。〔却已〕前^ニ問^ニ。師云、古^ニ

鏡臺前荒草秀。古鏡臺^ハ、位裡^ニ。前^ニ荒山秀^ト。僧云、便恁^ニ廣^ニ去^ニ叱^ニ如何。去^ノ字^ニ付^テ、向去^トハ見^ベカ

ラズ。爰^ニテハ、辭^ニ。師云、金烏^ニ啣^ニ片雲^ニ。トハ、曉天ノ体^ニ。横雲ガ、東^ニ引^ケバ、程無^ニ夜ガ曉^ゾ。師乃云、沿^ニ流^ニ無^ニ定^ニ止^ニ、

真^ニ喫^ニ不^レ留^ニ蹤^ニ。トハ、真正作道人^ハ、不^レ觀^ニ世間^ニ相^ニ、心^ニノ欲^ル處^ニへ、歩^ニ行^ニ。姪房・酒肆・僧房。千峰秀^ニ處^ニ鶴難^ニ栖^ニ、万水澄^ニ眨^ニ

魚自^ニ穩^ニ。鶴モ魚モ、隨^ニ意^ニタ^ゾ。樵人罷^ニ賞^ニ、釣^ニ客迷^ニ巢^ニ。タトハ、釣臺^ニ。漁夫・樵夫^ニモ、墮^ニ在^ニセヌ^ニ様子^ニヲ云^タゾ。古^ニ渡^ニ深雲

同^ニ歌^ニ絶^ニ韻^ニ。古渡^ハ、漁夫ノ立^ニ處^ニ、深雲^ハ、樵夫ノ立^ニ處^ニ。漁歌・樵歌ノ一^ニ。是モ、機ノ不^レ定止^ニ体^ニ。正恁^ニ廣^ニ叱^ニ、知^ニ〔15才〕音底

(44) 大本「不慕……已灵」ヲ「不求諸聖、已灵不慕」ニ作ル

(45) 寛本、万本、面本ハ「啣」ヲ「銜」ニ、大本ハ「含」ニ作ル

在ニ什^カ广^ニ処^ニ。良久云、玉兔常當^{（46）}戸^ニ、白^ニ日^ニ不^レ移^レ輪^ヲ。此句、今時霞堂々ノ義也。大乘ワ、

（46） 大本ハ「戸」ヲ「午」ニ作ル

イツモ夜半、イツモ日中タゾ。夜ノ曉ヲモ不^レ知、日ノ
晩ヲモ不^レ知義也。良久ノ処へハ、如此合テ云ベシ。

〔徹通和尚之註〕

不求諸聖、己灵不慕入再皈法身、此時諸聖自无在処也。非可求也。已是己灵転位来、故云、不重
也。又万機休罷句下、同可見也。有深一理、又有絶学无為一理也。古鏡臺前荒草秀入自位中岁
頭、未岁今時也。金烏含片雲入一氣生也。玉兔常当午入今時作用也。露堂々也。

（30） 上堂云、勝淨妙心、本周^ト沙^マ界^シ。此妙心ト云ハ、周イゾ。何カ精真廓^ト尔^ト明白

洞^ニ然^ニ。万端、此妙心ニ被^レ灵^ニ花^ニ密^ニ秀^ニ異^ニ前^ニ春^ニ、風^ニ味^ニ混^ニ成^ニ塵^ニ外^ニ句^ニ。桃紅李白モ、灵

劫外ヨリ萌^ニ出^ニタ^ニト看^ニヨ。妙心タゾ。塵外句、鴉鳴^{（雀）}直^ニ得^ニ寒^ニ林^ニ布^ニ彩^ニ、野^ニ水^ニ流^ニ芳^ニ。此

心ノ劫外ヨリ秀タト見レバ、只ノ寒寂^ニ尔^ニ不^レ凝^ニ、如何^ガ躰^ニ異^ニ。トハ、前ハ、皆同ヲ以テ、

何ト異ヲバ、ア當^{（44）}陽^ニ不^レ路^ニ今^ニ一^ニ眈^ニ路^ニ、得^ニ意^ニ無^ニ私^ニ鳥^ニ道^ニ玄^ニ。鳥道トハ、中間ヲ云タゾ。迹ノ

ラワスベキゾ。無キ故ニ、玄ト云。行モ皈モ、

（44） 寛本、万本、面本ハ「路」ヲ「踏」ニ作ル

〔徹通和尚之註〕

勝淨妙心入一段光明也。道躰真躰也。得意無私鳥道玄入自己主也。又位主也。